



朝陽



No.73

2024 June



東京都立新宿高等学校〔府立六中〕朝陽同窓会

新宿 丸港水産

北海道各地の新鮮魚介
産地直送厳選素材集めました



ご宴会承ります

人数・ご予算
ご相談ください

昼飲みにも最適！あの頃の新宿を
楽しめる老舗海鮮浜焼き居酒屋です



ご予約の際に『新宿高校OBです！』とお伝え下さい！
お得なサービスをご用意させていただきます！

☎03-5367-2377
東京都新宿区新宿3-12-12吉田ビル

株式会社エフアンドビー・プロジェクト
東京都大田区東蒲田2-30-17サンユ-東蒲田ビル2階

代表取締役社長 織岡 陽一郎 (24回卒)

朝陽七三号 目次

ご挨拶

会長ご挨拶……………18 三上彩子……………2

周年記念特集記事

卒業四十周年……………三六回生……………3
卒業五十周年……………二六回生……………5
卒業六十周年……………一六回生……………13

会員随筆

関東大震災における六中義勇団の活躍……………23 太田正行……………18
空の中で四十余年……………31 中移慶介……………20
ジャングル旅は止められない……………35 若林九重……………23
山岳部OB OG「わらし」やんちゃな山男たちの時代……………16 多田俊明……………26

支部便り

北海道朝陽会……………31 江本 匡……………31
群馬朝陽会……………25 浅原寛人……………31
九州朝陽会……………28 平岡 啓……………32

同期会・部活OB・OG会報告

絢爛会……………24 龍岡友子……………33
軟式野球部OB・OG会……………30 岩崎 彰……………34
バドミントン部OB・OG総会……………35 安部ふゆみ……………34
朝陽硬式テニス部総会……………23 佐藤友則……………35
生物部OB・OG総会……………12 村田絃隆……………36
卒業四十周年記念同期会……………

二五回生の卒業五十周年……………35 眞宅弘光……………38
コロナ禍を乗り越えて……………25 渡辺康隆……………39
卒業五五周年同期会（楡の木会）……………23 天田守久……………40

一九回生同期会……………19 大石和夫……………42
卒業六十年いちご会……………15 横田 堯……………42
八回生同期会……………8 小林暁生……………44
七回生同期会……………7 高屋（正木）千鶴子……………45

二木会 五百回の金字塔……………11 大森康晴……………46
二二回3C観桜会……………22 中村治樹……………50

創立百周年記念事業と各種イベント……………24 稲見一政……………51
記念音楽祭……………24 稲見一政……………51
記念美術展……………59 田中 走……………53
東京校歌祭……………38 鈴木仁志……………54
新たな大遠泳……………

母校便り……………学校長ご挨拶……………堀川勝史校長……………55
離任ご挨拶……………藪田憲正前校長……………55
母校便り……………成嶋功二副校長……………56
教職員異動……………進学実績……………57
写真アルバム……………部活動紹介 男子バレーボール部……………59
湯田雅也……………60

事務局便り

令和五年度総会議事……………事務局……………61
総会記念講演……………事務局……………61
母校支援活動……………事務局……………62

寄贈図書一覧……………事務局……………62
会費納入状況……………事務局……………63
令和六年度総会議案……………事務局……………64

議案一 役員人事……………64
議案二 二〇二三年度……………65
事業活動報告と決算案……………65
議案三 二〇二四年度事業計画と……………65

財団朝陽会財務諸表……………73
賛否表明用紙……………72

戸山対抗戦……………21 伊藤 剛……………75
ゴルフ交流戦……………21 伊藤 剛……………75

恩師計報・追悼文

松崎先生の残してくれたもの……………32 宮地 力……………76
「小宮先生」挫けない心とかげがえの……………26 安齋正則……………77
ない仲間……………28 水野浩久……………78
北地先生に五十年間の感謝をこめて……………28 加賀美秋彦……………79

我らの偉大な恩師北地先生を偲んで……………28 加賀美秋彦……………79
計報……………80

広告・目次……………エフアンドビー・プロジェクト……………表2
名刺広告……………30
グリルシャトー……………30
焼き肉酒家李苑……………30
0会告知記事……………30
朝陽合唱団団員募集……………50
会費納入のお願い……………67
京王プラザホテル……………70
同窓会SNSのご案内……………80
株式会社ゼンショー……………表3

会長ご挨拶

次の一〇〇年に向けて活動開始

同窓会長 三上彩子（十八回）



昨年から今年にかけて、百周年記念事業の締めくくりの年となりました。

まず、今年三月の卒業式にあわせ、一〇〇周年記念庭園の記念碑の除幕式が行われました。そもそもこの記念庭園は藪田前校長の発案によるもの。校舎からグラウンドに向かう右側の緑地にその庭園があります。



『健児の歌』に登場するかの有名な興国の鐘。その行方はいまだに分かりませんが、

のシルエットを記念碑に刻みました。題字を書いてくださったのは五二回生で本校の体育の教師、野球部の監督の田久保先生。先生のおかげで格調の高い記念碑ができました。

朝陽同窓生の層の厚さに改めて驚いた次第です。この記念碑のある庭園は、新宿高校の新たなシンボルの一つになることでしょう。

層の厚さと言えば、今年二月に行われた百周年記念美術展も然り。絵画、彫刻、絵本など、素晴らしい作品が集まりました。

昨年九月には、百周年記念音楽祭が華々しく行われました。出演者は十代の在校生から九十代の同窓生まで。曲目も池辺晋一朗さんの曲、昨年亡くなった坂本龍一さんが関係する曲など、大家族主義を地で行く大音楽祭になりました。入場料無料で行われましたが、有料でも良かったという来場者の感想はうれしかったです。

私たち同窓会の目的は、会員同士の親睦と母校の応援団であるということ。親睦の代表格は、総会とその後に行われる合唱や講演そして懇親会。

その他、ホームカミングデー、支部会、同期会、部活のOB・OG会、ゴルフの戸山戦など、一度顔を出してみませんか？

こういった行事を、皆さんに広く簡便に知っていただくため、SNSやホームページの充実が必須です。そのため若い方々にも参加してもらって、広報委員会を立ち上げました。これからの新宿高校にふさわしい広報システムを作っていきます。

さて同窓会活動のもう一つの柱である母校の応援団。これも代表格は、百年続いている館山での伝統の臨海教室。同窓会なくしては安全な開催は望めません。その他キャリアガイダンスや、奨学金制度など充実させていきます。今年の新宿高校の入学倍率は推薦、一般ともに都立の中でトップでした。在校生は頑張っています。今後がますます楽しみです。

これからも『大家族』として、在校生、教職員、PTAとタッグを組んでまいります。

ご協力と応援よろしく願います。

卒業四十周年

……

「六中出てから、四十余年。ヨイショ」

36回

新三六回生と言えば、「最悪の世代」「暗黒の学年」と呼ばれ、昭和末期から始まる母校の黒歴史の初期に位置します。偏差値とか進学実績やらを物差しにすれば、のお話ですが。

何が「最悪」で「暗黒」だったかと言えば、新三六回生は当時の共通一次テストで全国××を下回ったらしいのです（違っていたらごめんなさい。記憶力は母のお腹の中においてきました）。斯様に曖昧な表現になるのは、自分自身が人生で一度も共通一次テストを受験していないからに他なりません。では、ここからどうやって辯護士入澤武久になったのか等という話しは誰も興味をもってくれないと思いますので、四十年前の思い出と夢の跡を探訪してみました。



【その一】「石の家」

かなり古くから存在する甲州街道近くの中華料理屋さんです。

在学中の「石の家」は、まさに外壁にスライスした石が貼ってありました。店内の一部が畳敷きの座敷で、「海の家」とも呼ばれていました。記憶の中では、やり手お婆さまのような方がフロアにいたような。

当時の「石の家」は、土曜日になると場外馬券売場に吸い寄せられた赤鉛筆を持った殿方が集うお店、と言うイメージがあり、土曜日にお邪魔することはほとんどありませんでした。テレビでも、お馬さんの画像が流れていました。余りお金はありませんでしたが、畳の席でムースローをつまんだものです。焼きそばも湯麺も好きでした。ただ、湯麺は友達とのシェアが容易ではないので、個人で来店した際のささやかな贅沢でした。

その後、改築されて全て椅子席になりましたが、雰囲気は高校時代の面影がありました。今は亡き柔道部のWクンと最後に呑んだお店も「石の家」でした。しかし、昨年のナイトタイムに二軒目としてお邪魔してびっくり！なんと二十代とおぼしき若者であふれか

えていたのです。お店のキッチンもフロアも若者。代替わりなどではなく、事業譲渡でもしたのでしょいか。湯麺の味は変わっていませんでした。

ネットで検索すると、一九八四年頃という「石の家」の外観写真が見つかります。モノクロームで。一九八四年と言えば、卒業直後。この写真により土曜日の「石の家」周辺は、ギャングラーの異様な熱気に包まれていて、甲州街道の下をくぐるのには勇気が必要だったことを思い出しました。



【その二】地上と地下の昭和館

今は無き映画館、新宿昭和館&昭和館地下。昭和館にはウィキがあります。これによれば、二〇〇二年まで映画館として営業していたとのこと。高校卒業とともにご無沙汰してしまったのは失敗です。

在学中のわたくしは、「高校の授業は司法試験には出ないからムダ」という極めて合理的な考えに脳みそを占領されていました。家に帰ってもやることがないので、帰宅部のくせに帰宅せず、任侠モノ3本立てを鑑賞していま

した。おかげさまで「仁義なき戦い」シリーズや「網走番外地」シリーズのコンプリートのみでなく、「神戸国際ギャング」とか「ヤクザの墓場 くちなしの花」等というマニアックな作品にも出会えました。前者は実話部分もあるようですが、後者はめちゃくちゃなストーリー（深作欣二監督）で、多感な少年の心に深い傷を残しました。当時の昭和館は、煙草の煙でもうもうとしていて、「お煎にキャラメル」のようなものを売っている売り子もいました。退館時には、みんなが広島弁になって、与太って歩いていました。

さらに、「昭和館」と言えば「昭和館地下」にも言及しないわけには参りません。「昭和館地下」と言う赤裸々にアンダーグラウンドな名称の映画館は、大人向桃色映画3本立てを上映していました。多感な年頃ですが、年齢制限と言う規範があります。しかし、

高校二年のある日、「通学定期を見せれば、堂々と学割料金で鑑賞できる！」という情報が学年中を駆け巡りました。なんと、年齢制限を突破した上に、割引まで！「一粒で二度美味しい」とはこのことです。多くの男子生徒が欣喜雀躍し、早速、実践しました。

ところが伝聞とは恐ろしいモノ。勘違いしたのか、誤った情報が伝わったのかは今となっては検証できませんが、A野クンが「昭和館地下」のチケット売り場のおばさんに、高校生即ち未成年であることのエビデンスである東京都立新宿高校の学生証を呈示するという失態を犯してしまいました。勿論、関門は突破できませんでした。

ネット時代になって、このように禁を破るドキドキ感はなくなってしまうました。昭和館の跡地は分かりますが、今や面影はまったくありません。



【その三】酒のない店 こまどり茶屋

高校在学中のがつつりと言えば、通称「こまどり」です。部活帰りに、男女問わずカロリーをチャージしていた人は多かったのではないかと。

帰宅部のわたくしは、土曜日に帰宅する前に野球部の面々と一緒に自宅で食べるランチの前菜をしたためていました。いつも湯麺しか食べないので、O部クンに勝手に「湯麺！」とオーダーされるくらいでした。

この「こまどり」は、高校卒業早々

に廃業し、ビルになってしまったと思います。当初はビル名に「こまどり」の名称があつたと記憶していますが、売却したのか、途中で名称が変わってしまった、今や跡地も見つけられません。その他、昭和ノスタルジーな「ちゃんや」、フレンチフライのような衣の「とんかつ三太」、食べ放題の「シェーキーズ」、たまり場だった「ウエンデイズ」、憧れの「マンモス喫茶カトレア」等についても言及したかったのですが、紙面が尽きてしまいました。

卒業してから四十年も経過し、新宿高校も街も自分自身も随分と変わってしまいました。高校時代には、五十代も終わろうとする自分など、微塵も想像もしていませんでした。でも、五十代はとても面白く、楽しかったのです。もうすぐ到来する六十代にも期待しています。

（三六回代表幹事

G組 入澤武久）



卒業五十周年

……

恩師・級友との思い出はいまも

26回

私たち二六回生は一九七一年（昭和四六年）に入学しました。当時の都立高校入試には学校群制度が採用されていて、新宿高校と駒場高校で二一群でした。クラスはA～Hまで八組で三六〇名ほどが入学。男女比率は三対一。第二学区では、駒場高校は女子には一番人気があったので、男子より女子の方が出来が良かったという気がします。

校舎はまだ新しく、教室の窓から見える新宿御苑の緑がきれいでした。甲州街道沿いにはまだ二階建ての旧校舎、体育館・プール、工作室がありました。二・三年前に盛んだった学園紛争も下火になっていました。それでも安保問題やベトナム戦争、沖縄返還問題などの政治活動に関心を持っていた生徒は少なからずいたようです。学校が新宿の繁華街に隣接していたということもあってか、中にはパチンコ屋へ出入りしていた生徒もいました（私もその一人ですが）。校舎の屋上で煙草を吸って、近所の住人に警察に通報された事件もありました。もちろん多くの生徒は、進学校らしく、真面目に勉学や部

活動に励んでいました。館山寮（塩見）の臨海学校、合唱コンクール、戸山交流戦、文化祭、体育祭、修学旅行など楽しい思い出がいっぱいあった一・二年生でした。三年生になると、部活動は引退となり、授業も選択科目が増えて受験に向けての態勢が進んでいきました。大学受験という人生の一つの分かれ道に進んでいきました。

そんな私たちも一九七四年に卒業、それから今年で五十年（六八歳）を迎えました。まさに老後に突入したというところでしょうか。よくぞここまできたなという感があります。同期生はいまだにフルタイムで働いている人もいますが、大抵は現役を退き、パートタイムで責任のない気楽な仕事についています。仕事を完全に止めて、のんびり暮らしている人もいます。そんな同期生との飲み会では健康問題から始まって、年金受給、親の介護、子供の結婚、孫の世話、相続問題、熟年離婚、趣味など話題は尽きません。老後の生活では、自分の好きなことをする時間は、今まで以上にたっぷりあります。

す。山登り、旅行、テニス、バスケ、サッカー、マラソン、ゴルフ、野球、コーラス、楽器演奏、絵画、陶芸、ボランティア活動等々と、みんな大いに楽しんでいます。人生百年時代と言われる今、まだまだ先が長いのは確かです。健康で好きなことが続けられることが何よりも幸せかと思うこの頃です。

さて、二六回生はこれまでに五周年、二十五周年、三十周年、三十五周年、四十周年、四十五周年と同期会を重ねてきました。今秋には五十周年同期会を開催する予定です。前回の四十五周年同期会は運よく、新型コロナウイルスの発生前年に開催することができ、参加者一四五名の盛大な集いとなりました。その同期会に参加できなかった同期生多数にも運営会費を負担いただき、収支トントンとなり、今までの余剰金もありましたので、幹事団全員の賛同により、朝陽同窓会の館山寮再建募金へ十五万円を寄付しましたことをあらためてご報告させていただきます。今秋開催予定の五十周年同期会ですが、今回も同期生有志による生バンド演奏での思い出の歌の合唱をする予定です。それゆえ我が幹事団は、会場の天井の高さにこだわり続けています。



天井の高さで音の広がりやビジュアルが断然違います。会場はコスパも重視して、前回同様の日本青年館ホテルを予定しています。詳細が決まり次第、同窓会のホームページに掲載します。また、案内状は八月中に郵送する予定です。今回も大勢の同期生の参加をお待ちしています。思い出の歌の合唱で、皆で五

十年前にタイムスリップしましょう。

最後に、代表幹事としてこの誌面を借りて、日頃の同期生の同窓会活動への貢献に感謝を表します。百周年記念募金・館山寮再建募金への寄付をはじめ、『朝陽』や『百周年記念誌』などへの寄稿、様々な同窓会行事への参加、母校でのキャリアアガイダンスの講師役などがありありがとうございます。そして、これまでの同期会開催に尽力してくれたタレントぞろいの頼もしい幹事団に大いに感謝です。

代表幹事 金杉 一朗

吉江新二先生の思い出

A組 高橋 新三郎

私は現在、個展やグループ展などで作家活動をしている日本画家です。

吉江新二先生は美術担当で美術部の顧問でもあり、油絵やデッサンなどを指導されていました。私は当初、美術大学のデザイン科を志望していました。高三の秋に東京国立博物館で開催された琳派展を吉江先生に勧められ観に行き、日本画の素晴らしさに深く感動し、日本画を勉強したいと思う様になりました。

した。

私は日本画を勉強したいと吉江先生に相談したところ、日本画を学ぶのなら東京芸大の日本画科が一番良いと言われました。吉江先生は油絵を描かれていたのですが、実は東京芸大日本画科出身だったのです。そんな縁もあり、東京芸大日本画科志望となりました。三浪しましたが無事東京芸大日本画科に合格する事が出来ました。

吉江先生が所属する主体美術展は東京都美術館開催で東京芸大の隣です。主体美術展の控室に吉江先生を何度か訪ねました。お酒を持参すると喜んで控室で飲み会になりました。さらに上野界限に飲みに来て行ってくださいました。

私は教育実習を母校で行いました。私の担任だった島田先生はまだ在職されていましたが、吉江先生はもう退職されていました。私はその後、日本美術院（院展）に所属し、個展やグループ展などで作家活動を続けていました。二〇〇二年に池袋の東武デパートで個展を開催した時には3Aのクラスメイト達が来てくれて、とても感激しました。三十年ぶりに再会した同級生もいました。

その後、主体美術の関係者から吉江先生が亡くなったと聞きとても残念にっていました。

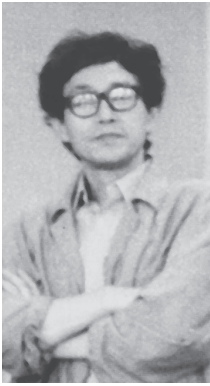
二〇一八年の朝陽に「吉江新二・麗子二人展」と同時開催で教え子による「小品展」の募集が載っていました。私は「小品展」に応募して出品することが出来ました。

久々に吉江先生の作品に深く感動し一緒に自分の作品が展示された事に何か感慨深いものがありました。

それがきっかけで新宿高校美術部OBによるグループ展O（ゼロ）の会に入会する事になりました。Oの会に出品する様になって先輩OBの人達に吉江先生に関するお話を伺う事が出来てとても良かったです。

新宿高校に入学して吉江先生に出会っていなければ今の日本画家高橋新三郎はいないと思っております。

吉江新二先生に深い感謝を込めて終わりにしたいと思います。



故 吉江新二先生

とき駕籠屋

B組 青野（齋野）厚子

【一九七一年四月二八日 A子①】

高校に入学したばかりのA子十五歳は、人生に絶望していた。モンキーズが解散したのだ。A子はまだ何者でもなく、何者になろうとしているのかもわかっていなかった。窓にノックの音。見知らぬおばさんがいる。

部屋に入ってきたおばさんは、五三年後のA子だという。六八歳。A子十五歳をA子①と呼ぶ。おばさんのほう

のA子②は、何故そんなに無気力なのだとA子①を叱責する。「本当に私なの？」A子①が反発する。左の指の彫刻刀の傷を見せるA子②。同じ傷がA子①にもある。小学生の時に、彫刻刀で切った傷だ。「今やらかしちゃったら、将来、後悔しても仕方ないの」。

「じゃあ、未来のこと教えて？」「規則で禁止されてんだけどな。クラスのI君、大学の先生になったよ」「I君

が！大学の先生って勉強を仕事にする人でしょ、信じられないよ」「私だって、こっちに來れるなんて、信じられなかった」A子②は、私も人生に絶望しててね、と話し始める。

【二〇二四年四月二八日 A子②】

A子②は、新宿高校近くの古い一角で道に迷っていた。そこに『とき駕籠屋』はあった。古びた日本家屋に「貴方の後悔、取り戻せます」と張り紙。

引き戸をあけると、着物でちょんまげ姿の男。土間に駕籠がある。一回五千円、この「とき駕籠」で好きな時代に行けるといふ。説明しながら、店の主人はA子②が見つめているちょんまげに手をやる。「これは本物。あつしも江戸時代の宿場から来たんでさ」

【一九七一年四月二八日 A子①】

「で、何しに來たの？」とA子①が聞くと、「勉強しな！あんたは、このまま、ぼうつてしていると、そこそこの大学に入る」とA子②は叱責。

「よかった！大学に入れるんだ」とA子①。「よくない！東大に行け！」「無理！」。

「あんたはそこそこの大学で、そこそこの男と知り合って結婚して、そこそこの人生を送る。それでいいの？」

【一九七一年十二月八日 A子①】

A子①は勉強を頑張っている。国立だと苦手な数学がある。教科書の数式

をまるごと暗記しようとしていた。

【二〇二四年十二月八日 A子②】

ストックホルム行きの機内。C Aが新聞を配っている。見出しは、「ノーベル賞の授賞式、十二月十日」A子②は溜息をつく。「数式を暗記したって……」涙が頬にこぼれ落ちる。

一九七一年のA子①が、居眠りから覚める。あれ？ 頬が濡れてる。教科書の数式の上に、涙がにじんでいる。

卒業五〇周年に寄せて

C組 久保 祐一

成城学園前から小田急に乗ると電車はすぐに仙川に差し掛かる。仙川は春になると美しい桜の花でいっぱいになるけれども、僕の頭の中では何故か桜ではなく、柳の葉が揺れているような気がする。頭の中でユーミンの「卒業写真」が聞こえる。革ではないけれど、白い表紙の卒業アルバムが開かれて、写真に映った高校時代の自分や友達が蘇る。みんなあの頃と変わらない姿と声で、あるときは机に向かって勉強し、あるときは教室や廊下を走りまわり、

ときには、授業抜け出して御苑を散歩したりしている。苦しいことや悩んだことがたくさんあったかもしれないけれど、五十年の年月がほとんど洗い流してしまつて、手のひらにはいっぱいのキラキラした思い出が残っている。

新宿駅の南口に降り立つ。高校時代はうらぶれた雰囲気だったけれど、今はすっかり新宿駅の表玄関になっている。テレビで中継があるたびに、「ここが僕らの通学路だったんだよ！」と叫びたくなる。景色はすぐに新宿聖人を横目で見ながら通った貨物ヤードの脇の道へと変貌する。イルカの「なごり雪」が聞こえてくる。あの頃の僕はふざけすぎていたのだろうか？ いやむしろくそ真面目に、幼いながら精一杯生きていたと思う。自分があの頃の先生がたの年齢を超えてきつとたくさんご苦労をかけたのだろうか？ と今更ながら頭を垂れる。

バルト9に上るエスカレーターから、今の新宿高校の立派な校舎を見下ろす。五三年前にはまだ旧六中の校舎が廃墟として残っていた。草むらの中に残った建物に忍び込み、こちらへんに興國之鐘があつたんだらうなあと思い出すと、クラス全員が大声で歌った「六中

健児の歌」が聞こえてくる。学び舎は変わり、先生も変わり、生徒がみんな変わっても、旧六中から新宿高校へとつながる伝統はこれからもずっと続いていくのだろう。

社会に出てから、あの時にこうすればよかったとか、昔の自分に教えてあげたいと思うことがあるけれど、もし高校時代の自分に合う奇跡が起こってもきつと何も言わずに微笑んで見つめるだけだろう。

ありがとうございました。人生の一番きらめく時と一緒に過ごしてくれた先生、友達、そしてあの時の自分。

「三皇五帝」

D組 高橋 圭一

新宿高校を卒業してから五十年です。同級生は六八歳になりました。

私の場合、とりわけ、国語科の先生たちが印象に残っています。現国の中野博之先生、前中昭先生、漢文の坂本右先生。授業中の言葉が印象に残っているのは中野先生、多くの影響を受けました。漢文の坂本先生からは、いきなり、中国の神話時代を含めた歴代王

朝名を、「三皇五帝、夏、殷、周、春秋戦国、秦、前漢、新、後漢、三国、西晋、東晋、宋、齊、梁、陳（今は南北朝が主流のようです）、隋、唐、五代（十国）、北宋、南宋、元、明、清、中国」と教わりました。その後、司馬遼太郎や陳舜臣の小説などを読む時、その他さまざまな局面で、基本的教養としてとても役に立っています。「漢文の授業なのに、何でこんなものを覚えさせられるのだ？」と当時は思いましたが、最高のタイミングで丸暗記でき、後の人生で大きな財産となりました。

さらに、大学・学部学科そして就職先を選ぶときに大きく影響を受けたのが、新宿高二年時の文化委員会（多分、生徒会）が招いた講師の講演会で、公害自主講座を主催していた東大助手の宇井純氏の話を聞いたことです。その後の進路、人生を方向づける事になりました。卒業後も宇井先生の自主講座に通いました。また、大学、大学院と研究室で師事した坂本和彦先生（のちに環境省の中央環境審議会の大気部会の座長を約十年間務める）の教えを受けたのが幸いし、日本気象協会↓海外環境協力センター↓日本工営と二回転職をしましたが、かなりの期間、大気

汚染関連の技術者として働くことができました。

四十歳を過ぎてからは主に海外でのJICAの仕事で、出張をベースに、シリア、イラン、ベトナム、コソボ、エジプト、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ウズベキスタン、モンゴル、インドなどの途上国の環境省職員、地方環境局職員、市役所職員などに大気汚染関連の技術指導に行きました。趣味も、海外旅行で、未だにバックパックでの個人旅行です。出張とプライベート合わせて、約一五〇回出国し、計五五カ国に行きました。計八年ちよつと海外に居たことになりました。八十歳までに八十カ国を訪問するところを目標にしています。そうそう、新宿高校時代は、高二のころから、少年誌に連載の漫画の主人公に顔が似ているということでした。「オモライくん」とあだ名をつけられました。私の本当の苗字は知らずに、「オモライくん」と思っている人が今でもあるかもしれません。なんだかんだと言っても、新宿高校時代の友人達とは五十年間付き合っています。新宿高校で、三年間を過ごさなかったら、より味気ない、違った人生になっていた気がします。

今も心に残る新宿高校

E組 井岡 卓也

E組クラス会の幹事であることから、今回の寄稿役が回ってきた様だ。クラス会に出るとタイムスリップした様に当時の様子が鮮明に蘇る。一九七一年春、意気揚々と入学したもの、いきなり「斜陽の名門校」と言われ少し傷つきつつも、その言葉の軽妙さが心に響いた。それが半世紀経った今も名門校であり「朝陽」に寄稿できることは光栄である。ここでは、高校生活で特に印象に残った授業や部活について、そしてクラス会の幹事をやって思うことを書いてみる。

一年はG組で担任は津田先生・野村先生、二・三年はE組で関先生・古川先生だった。担任の先生が二人体制だったのは二五回生と二六回生のみだったことを後に知った。思い返せば、何かと時代の変わり目だったのだろう。先生方は個性派揃いで、国語の中野先生には、国語の重要性の認識の甘さに「君たちはウジ虫と同じだ」と言われ、生物の石川先生には「時節を問わず生殖活動を営むのは人間だけだ」とさらりと言われ、刺激のある授業が多

かった。

クラブは硬式野球部に入った。部員は三年が宮崎キャプテンを始め九名、二年は後に教員となった鈴木裕太先輩を含む四名、一年は林、浅岡、小笠原、森嶋、山崎、井岡の六名と初の女子マネージャの高山さんの約二十名であった。グラウンドは狭く、日々の十分な練習が出来ない中で、顧問の福島先生が、土日、春夏休暇を問わず、試合、合宿に同行下さったことは、今でも感謝の念に堪えない。また、OBの横田先輩らの厳しいながら熱い指導があり、夏の甲子園予選では、三回戦で私立の豊南に勝ち、五回戦（都ベスト32）まで進んだ。私は背番号14、レフトでスタメン出場した。その後、二年生時も五回戦、三年生時は四回戦で高校野球生活が終了した。

大学卒業後、四十年間総合商社に勤務し、その間四都市の海外勤務も含め転勤が多かった。それでも野球は続け、今なお先輩方の指導や経験がプレーに活きている。一方、五年毎の二六回生同期会、年一回のE組クラス会には出たり出られなかったりだった。ここ数年、ようやく落착き、クラス会の幹事を引き受けている。担任の古川先生

にも、最近ではご自宅に近いお店で開催し、ご出席頂いた。連絡が付かないクラスメイトもいるので、本寄稿文を読んだら連絡頂けると嬉しい。今後もあるだけ多くの仲間が気軽に参加し、健康寿命維持の一助になるクラス会を続けていければと思う。自身のボケ防止の為にも。

漆と仲間に囲まれて

F組 浅野 陽子

六十代後半を迎え、会社で偉い地位にいた人も、母・妻・娘だった人も、肩書きナシの一人の人になりましたね。いろんな経験をした後の一個人。高校時代とは違うけれど、自由な自分が戻ってきているのではないでしょうか。私は会社にも家庭にも縛られることが少なく、自由に生きてこられました。そこには、当時の新宿高校の空気や美術部の吉江先生の存在が影響していると思われまふ。

仕事がどんなに忙しくても、決して手放さなかったことがいくつかありました。鎌倉彫、陶芸、草木染め、日本画、朗読、漆芸……。中でも、私のラ

イフワークになったのは漆です。鎌倉彫の塗りから始めて、蒔絵（漆で絵を描いて金属粉を蒔きつける加飾法）、螺鈿（薄貝を漆で張り合わせる技法）、乾漆（麻布や和紙を漆で張り合わせて形をつくる技法）などを学びました。でも、私が経験したのは漆芸のほんの一部でしかありません。

漆はウルシの木の樹液で、縄文時代から塗料として、接着剤として使われていました。遺跡からは椀や櫛に漆を塗ったものが出土しています。現在、漆器は高価なもの、扱いにくいものと嫌われますが、たぶんそれは蒔絵を施したキレイな椀や重箱を想像するからでしょう。しかし本来、漆は、防水剤として木製品に塗ったり、接着剤として金継ぎに使ったり、兜や鉄器に焼き付けて強度を高めたりと、いろいろな面で使われてきました。私はキレイだけでなく、漆本来の力を生かした作品づくりをしたいと思っています。

二〇一二年、私は自宅で漆教室を始めました。そのとき、漆のことなど何も知らない旧クラスメートの女子が何人も参加してくれました。彼女たちも今や漆の魅力にハマり、漆のよさを周囲に広める伝道者になってくれていま

す。月に一、二回の教室では、おしゃべりに花が咲くことも多いのですが、作業に入ると無言で黙々と貝を貼り、黙々と漆面を研ぐ。無心で集中する時間は気分をリフレッシュさせてくれるようで、皆、スッキリした表情で帰っていきます。

三、四年に一度、教室展を開きますが、毎回、皆の作品が前回からゲンとレベルアップしているのを見ると、教える身として喜びと誇りを感じます。作品制作の姿勢やデザインには各の個性が現れ、それが高校時代の行動を思い起こさせるようなものだったりするのも面白い。

コロナ禍の苦しい時期を支えてくれた友人たちは、一人暮らしの私にとって心強いサポーターです。仲間に囲まれ、大好きな漆の世界にいられる幸せ。いつまでもこんな日が続きますように。

五十周年同期会 開催決定!!

日時…十月二六日(土)

午後二時～五時

会場…日本青年館ホテル

*詳細は同窓会ホームページで

思い出の先生方

G組 田神 仁

私は、新宿高校の先生方を見て高校教師を目指しました。それで今の自分があると思っています。敬意と感謝を込めて思い出の先生方について書かせていただきます。懐かしく思ってください。されば幸いです。

◆石川太郎先生…生徒に大人気の先生でした。四十分は、ためになる話(雑談?)。残り十分に凝縮された生物の授業でした。コロッケが好物で、三月三日の誕生日に生徒たちでコロッケを差し上げました。

◆大脇新平先生…黒板に書く筆記体英語の美しいこと。でも、iの点とtの横棒は見えませんでした。

◆国香久子先生…サブリーダー担当の英語科非常勤の先生。シェイクスピア副読本の訳をノートに書いていたら「英語は英語のまま理解しなさい」とおっしゃったのに、定期試験には日本語訳が出ました。

◆北地節夫先生…長期課題「地誌」が、理系の私にとっては地獄でした。教員になってから大変お世話になりました。城東高校初代教頭として、昔の新宿高

校を目標に文武両道の進学校をつくられました。それに学び、私も校長として広尾に古き良き新宿高校を再現しました!?

◆豊沢弘正先生…新宿高校の卒業生。「地学の豊沢」と言えば、代々木界限では有名でした。

◆須田一先生…一年生の担任で、ミスター業間体操。水曜の朝礼で全校生徒が行う珍妙な体操の指導者。

◆有元秀文先生…新採で着任され、自主トレーニングの姿が印象的。その後は文科省に勤務され、全国高校国語教育の重鎮でした。

◆佐元光子先生…入学直後の徹底した図書館教育によりNDCは今でも覚えています。

◆鵜城紀元教頭先生…漢文を担当。三皇五帝(歴代中国の国名)の暗記は、いい思い出です。私は教員海外派遣研修で北京・上海・西安に行きましたが、パーティーで披露した「三皇五帝」は、現地の先生方から大絶賛でした。

◆有賀健治先生…黒板に向かい、右手にチョーク、左手をバンドに通した黒板ふきを持ちながら行う物理の授業が印象的でした。超ハイレベル授業で、理系志望の私も大苦戦でした。

◆福島隆先生…タバコが印象的な化学の先生で、ゆったりした語り口の授業でした。三年生のときの担任で、教員になってからも大変お世話になりました。

◆佐藤喜一先生…愛称は「まろ」。本校卒業生で、一年生の担任でした。理科の私にとっては、平家物語の暗記がキツかったです。卒業後、私は佐藤先生の大学の後輩になりました。合格報告に行ったら開口一番、「なんで数学科なんだ。国文科だろう」と言われました。思わず、「国語は得意ですが、数学の方が好きです」と答えてしまいました。教員になってからも大変お世話になりました。

ジャコビニ流星群

H組 深井 昌克

ユーミンの楽曲に「ジャコビニ流星群」という曲があります。ユーミンは最近も曲を出し、紅白歌合戦にも出場していますので、学生さんもご存知の方も多いでしょう。この曲は、別名を「一九七二年十月九日に流星群を待ったが流れなかった」と言います。

一九七二年十月九日、私は十六歳で新宿高校二年生でした。この日、天文部の私は他の部員と共に、公休を取って赤城山地蔵岳の山頂で、空を眺めておりました。しかし、ユーミンの曲通り、「流星群を待ったが流れなかった」のです。六七歳となった今でも鮮明に覚えております。

そもそも、天文部など存在したのか、と同窓生にもよく聞かれます。現在の新宿高校には天文部は存在しないそうですね。しかし、確かに天文部は存在しておりました。我々が入学した時の校舎の屋上の片隅に立派な天体望遠鏡を有する天体観測施設があり、そこが天文部の拠点でした。部員は一学年五、六名程度。大変真面目に天体観測に没頭する先輩もいらつしやいましたが、大多数は頭がボサボサで、「ボヘミアン」風の輩が多かったです。

天文部は毎年夏休み、日の出山で予備合宿をおこない、そのあと館山寮で、八月中旬のペルセウス座流星群の観測をやっていました。結構本格的でしょ。

夜、美しい星空を眺めていると悩み多き私も心が晴れ晴れしました。火星大接近の時、そのすぐそばを、オレンジの火球が発現したのを覚えておりま

す。流れ星も沢山見ました。流れ星に願いごとをすると、それが叶うとよく言いますが、人の何十倍も見ている割には何も叶いませんでしたね。

何故天文部などという、地味で、女の子にモテそうもないところに入ってしまったのか、未だに悔やんでおります。しかし、理由は簡単です。小学生の頃、渋谷の五島プラネタリウムの「星の会」に入り、毎週通っておりました。今の「ヒカリエ」の場所です。夕日が沈む時、クラシックの調べと共に段々暗くなり、やがて真っ暗な中で星がキラキラ輝きます。この光景は大変印象的でした。

さて、「ジャコビニ流星群」に戻ります。最近「十月りゅう座流星群」と言うそうです。これは十三年周期に発生する現象です。一九三三年、一九四六年は一時間に一万個以上降り注いだそうです。一九七二年は、期待はずれでした。一九九八年の時も結構凄かったそうです。さて、次は何時でしょう。なんと、今年二〇二四年の十月です。期待すると肩透かしに合う、がこの流星群の性質（たち）の様です。期待しないで、どこかで夜空を眺めることにしようと思っています。

卒業六十周年

……

同期会は楽し

16回

終戦の年（一九四五年）に生まれた我々は東京オリンピックの年（一九六四年）に高校を卒業、この年は東海道新幹線の開通等高度経済成長の加速期でした。大学卒業後、学生運動世代であった我々は重厚長大産業・金融機関・商社等に散らばりましたが（日立製作所に十二名勤務等）そんな我々が卒業後二十年実年令三八才でした。当時流行っていた異業種交流会に参加する位なら同期会をやろうと木村幹事と決めました。同期には湯河原の老舗旅館（青巒荘／せいらんそう）社長高知尾君がおり、東京には第一ホテルグループに加藤君が幹部として活躍しておりました。両君と木村幹事とで協議し、青巒荘と第一ホテルを交互に利用する事で始まりました。

第一回は青巒荘での宿泊。参加人数百四名、大野天風呂後の大宴会、館内での二次会カラオケ、寝室は八人部屋での雑魚寝懇談、興奮して寝不足者続出の第一回目でした。

第二回は五年後、実年令四三才と油の乗り切った折に第一ホテル東京ベイ

（現ホテルオークラ東京ベイ）で開催。ディズニールランド隣のバブリーなりゾートホテルを加藤君が最大限のサービスで盛り上げてくれました。一次会終了後の二次会用にスイートルーム二部屋を特別に格安価格で準備してくれたので、これまた遅くまで痛飲しました。尚、この会は連絡網を完備すべく幹事団で努力をした結果、百七十名の参加となりました。

第三回目以降は運営方法も身についてたので、基本的には五年周期での実施として、二〇二三年までに合計で十二回開催いたしました。

宴会形式以外では、四十才台の中葉に十年間程続いた勉強会（一六会と称して）がありました。加瀬君（日経）今井君（日本原子力発電）平本君（TBS）を中心とした勉強会で、場所は今井君の勤務先の赤坂社員寮、テーマは参加者同志が先生生徒となつての勉強会だったと記憶しております。幹事長の加瀬君、今井君、主力メンバーだった広沢君の三名が早くして亡くなられたのは本当に残念なことです。

同期の集いの最後はゴルフ会です。西岡、平本、武藤、藤森、菊池君等が中心メンバーで、ゴルフ会は間もなく四十年になるとのことです。年に二回（春と秋）コースは名門府中カントリーと相模原ゴルフクラブでの開催。名門ゆえの居心地の良さを味わっている事と推察しております。

我が同期は地味ではありますが着実に活動が続けて参りました。今回寄稿頂いた方々をはじめとして、多彩な仲間と共にゆつたりとした八十年代になりたいと念じております。

（代表幹事 D組 梅本 建）

新宿が戸山か



H組 浦川 道太郎

昭和三六（一九六二）年新宿高校入学者の中で、私たち世田谷区立山崎中学（山中）出身の男子は、二十名ほどで大勢力だった。これは、ある偶然の結果であった。往時茫々であるが、その経緯を思い出すままに書いておこう。

私たちの時代は、進学先都立高校は中学の成績で決まり、第二学区では、優等生（？）は、新宿高校か戸山高校のいずれかに進学するようになっていた。三学期の始めであったと思うが、私たちは、担任教員から新宿か戸山に願書を出すようにと指示された。

学区のトップ校に頭書提出できることが決まって嬉しくはあったが、新宿、戸山という名前は知っていたものの、それがどんな学校か皆目見当がつかない。そこで仲間と相談したが、ともかく両校を見てみようということになった。

一月の寒い晴れた日の授業が終わった午後、私たち七人八人は両校見学に出かけた

私たちは、まず戸山高校を訪れた。

戸山の外観の印象は、山中より立派だとは思ったが、「こんなものか」というものであった。このあと新宿に向かったが、冬の日であるから新宿高校の校門をくぐる頃には日も傾いていて、震災にも耐えるといわれたコンクリート造りの校舎は薄暗闇の中に黒々と建っていた。校舎を一望した後に、朝陽会館横の路地奥の入口では下駄箱がないことを発見した（戸山にはあった

と思われる）。この時、ゲンチ（本間邦興君）が決定的な感想を言った。

「校舎は立派だし、革靴のまま教室に入ることを認めているのは、高校生を大人として扱っているからだ！」

薄暗闇の中で立派に見えた校舎と下駄箱がないこと、この二つの印象（誤解？）で、私たち山中組の新宿高校入学が決まった。

五七番

E組 鈴木 慧



一九六一年春三月、薄曇りの日、歴史が感じられる建物の傍らに張り出された白い紙の上に黒々と書かれた五七という番号を認めて、私の新宿高校生としての生活が始まった。

教室での授業が始まると、休み時間の机の上に、なんと数Ⅲの教科書を広げて頁を括っている級友がいたり、それまでと異なり、級友の皆の優秀なことに驚かされた。最初の実力考查

だったかで、なんとか皆についていると思えるまでは劣等感と不安を毎日感じた。

三年間で印象に残る思い出なり光景はいくつかあるが、やはり、一、二年の夏の塩見の臨海学校と水上の林間学校でのそれであろう。一年の時には、夕食前だったか、後だったか、海をへだたてた観音崎灯台の灯が回転し始める夕暮れ時、砂浜でフォークダンスを楽しんだ。ひそかに心を寄せていた同級生の手に触れ、うれしいといふかなんとも言えない気持ちになったものだ。二年の林間学校では、尾瀬に行った。至仏山を左手に見て尾瀬へ抜けた。そこは、見渡す限り、湿原のすべて、ニッコウキスゲの黄色い花で埋め尽くされていた。まさにこれぞ桃源郷、この世のパラダイスといった印象だった。現在に至るまでの間、接してきた数多くの美しい自然の光景の中で最高のそれと考えている。

二年の夏休みに、麻雀を覚えた。その面白さにすぐに虜となり、三年の時には、雀荘に居る時間の方が教室に居る時間より長かったと思う。成績は急降下、一浪しても麻雀を止めなかったので二浪してしまった。あの時、人並

みに受験勉強していればと思うことはあるが、社会人時代の息抜き、現在も週一楽しんでること、家人との出会い等、その後の人生を考え合わせ後悔はしていない。



『新宿高校で出会った人々』

(同級生は敬称略)

B組 武藤清

まずはサッカー部。一年先輩の星征雄、藤本直道さん(共に故人)は松沢中学の先輩でもあり、後輩の西岡利通、私、朝比奈秀行が誘われて入部。二年先輩の伊藤良徳主将はサッカーひと筋の憧れの存在。教員となってサッカー部を指導し八十歳の今でもサッカーを楽しむ。よき先輩に恵まれる。同期は林田晴彦(主将・故人)、島井駿蔵、本間信行、平地富安(故人)、和泉澄昭(故人)、高津明彦、鈴木勝男、牛越国昭、村岡繁樹。エース西岡の活躍もあって都ベスト8入り三回。「伝説の

黄金期」の始まり。一学年下の田中俊郎君も我が学年と一緒に活躍。彼は十六代朝陽同窓会長で一億円の寄付集めに奔走。同じポジションで二学年下の伊藤邦成君は同期のマドンナと結婚。そのマドンナが朝陽同窓会初女性会長の三上彩子さん。

ゴルフでは田中君、古谷延敏君(一九回)など往年のエースのスコアーが悪い。足と手は違うと強弁。美術の吉江新二先生の影響もあったか、大学は早稲田の建築へ。吉江先生の遺作展の抽象画に感動。東大の大学院受験では一年先輩の正田良次さんのノートが役に立ち同じ研究室に無事合格。誘われて就職も同じ会社。美術教師の久保寺(新井)信子の奨めで趣味の油絵を始める。グループ展来場の常連が、久保寺、西岡、麦田清一郎、本間邦興、中川元治、草薙麻子(故人)、北島秀明、平田滋、米山国武……。米山の画廊でのクラス会は芸術作品に包まれた至福の空間。麦田と本間は今も職場が近く時々小田急線で仲良く一緒に帰宅(六十年前と同じ)。

麦田は東大歌舞伎研究会で團十郎の襲名では歌舞伎座の舞台にも上がる。麦田の誘いで平本和生と一緒に小唄を

始めた。人生78年、建築60年、ゴルフ50年、絵画28年、小唄15年、すべてに『新宿高校で出会った人々』あり。もはや血肉か。

六中コンツェルン

G組 勝又 一郎



我々の学年は、東大への入学者を一〇〇名近くだすという、いわゆる有名都立高校の名をかりうじて保った年代だった。特にG組は国立理系がぞろぞろ居て、進学した工学部機械系に三人も所属する有様だった。ところが、今日まで毎年会う仲間は二年B組で、実は私の奥さんもその一人。卒業前に、レコード店のコタニの奥の喫茶室に誘って付き合いが始まった。

二Bの仲間は、大学も職業も異なり、「六中コンツェルン」と名付けられた。建築業の天達、銀行家の伊東、土木屋の植村、歴史家の牛山、官吏の大坪、電気屋の掛下、機械屋の勝又、医者佐藤といったメンツだ。一時期、共有

の別荘を持つとと蓼科まで物件の物色に出かけた。親の遺産相続が済むと、次は自分の番になる。八人が共有する不動産の相続など、ぞっとする。昨今は、グループだけのメール・ボックスがあり、日々の状況がLINEのように伝わってくる。

また、次男も第二グラウンドの校舎に通い、父兄会に出かけた母親が、入り口が分からずにうろうろさせられた。初孫は私立に進学したが、二番目の孫が都立を受けることを期待した。親子三代の通学も楽しみだったが、毎年送られてくる朝陽が四冊になったら、大いに処置に困ることだろう。

最近、高校の修学旅行の路を、少しずつ辿ることを始めた。高松の栗林公園、小豆島の寒霞溪、姫路城。全体の記憶はおぼろげだが、特定の景色のままで、突然に過去がフラッシュバックする。



政治は生活の道具

D組 藤田 愛子

高三の時だったか、正門の通りを自衛隊の戦車が列をなして通ったことがあった。

非常な違和感だった。

戦争が終わり貧しいながらも一生懸命努力すれば何かに到達するようなワクワクした気持ちがあった。

医薬理科系大学は東大闘争のあおりを受け、学内民主化闘争が勃発。目の前で起きていることが次の日の新聞に書かれるのだが、全くの出鱈目で、ジユラルミンとメディアには終生反発している。

薬剤師として臨床開発の仕事をしていたが、突然口説かれて、一九九三年七月に都議選に初挑戦し当選した。私たちの政治は地方分権・情報公開・参画が党是で今の言葉でいえば「ミニニュシユパリズム」ということになる。

昨年同級生の平本和生さんがTBSをリタイアされて本「昭和人の棲家」（ぜひ読んでみて下さい）を出された。番記者だった田中角栄氏、小沢辰夫氏、野中広務氏、プラザ合意に一役買った竹下首相、等々とのやり取りが克明に

記されている。

先輩記者からは「政治家との距離は30cmは置け」「抱きこまれないように警戒を怠るな」「権力を監視するのが俺たちの仕事」と言われたというが、政治家でないメディア人がある意味政治を動かしている。今とは違い少しいは国のことを考える政治家がいたように思うが、それでもメディアの監視能力は発揮できていたのか。メディアは国政、自民党の政治を流し続けた。地方分権一括法が制定されても地方自治など無視も同然だ。当然、地方政治の投票率は40%以下だ。

しかし、二〇二三年の我が杉並区議会では女性が過半数を超え、ジェンダーや気候危機対策のシングルイッシュューで勝つ人が出てきた。信頼置けない国政よりも地域からの変革をと。議員は終了したが物言う市民は生涯離れられない。

（元都議会議員）



坪井昌造法律事務所 弁護士 坪井 昌造 (26回) 〒107-0062 港区南青山1-10-4 南青山NKビル 4階 TEL : 03-5771-8041, FAX : 03-5771-8042 e-mail: tsuboi-lawoffice@muh.biglobe.ne.jp	ジュク！ファースト！！ 高橋法律税務事務所 弁護士 木村 眞一 (16回) 〒160-0017 新宿区左門町13-1 四谷弁護士ビル303 電話 : 03-6457-4356, FAX : 03-6457-4734 Email: s-kimura@abox3.so-net.ne.jp
石東 (いしづか) クリニック 精神科・心療内科 (もの忘れ外来・睡眠外来) 院長 石東 嘉和 (24回) 〒157-0067 世田谷区喜多見 8-18-12 コーポ真木 4階 小田急線喜多見駅徒歩30秒 TEL : 03-6411-8739 e-mail : ishizukaclinic@yahoo.co.jp http://ishizuka-cli.byoinnavi.jp/	税理士法人 アドヴァンス会計 副代表社員税理士 松野 (平田) 淳子 (27回) 〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-39-7F TEL : 03-5787-3255, FAX : 03-3413-6255 e-mail: j-matsuno@advance-tax.com
山本会計事務所 税理士 山本 展也 (27回) 〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ508 TEL : 03-5459-3411, FAX : 03-5459-3413 e-mail: LDZ00547@nifty.com	いわさき眼科 都立新宿高等学校校医 (眼科) 医学博士・眼科専門医 院長 岩崎 寿子 (35回) 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-32-5 日原ビル3F TEL : 03-5367-5455 http://www.iwasakieyeclinic.com/
島崎会計事務所 公認会計士・税理士 島崎 主税 (28回) 〒160-0023 新宿区西新宿7-1-7 A310 TEL : 03-3361-4793 e-mail: cpashima@ace.ocn.ne.jp	医療法人社団恵比寿会 淳クリニック ・内科 (呼吸器内科・消化器内科・気管食道内科) ・小児科・放射線科 理事長 院長 内藤 淳 (28回) 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-14-2 ツムラビル2F TEL・FAX : 03-5489-0463 https://www.ebisukai.server-shared.com
矢島税務会計事務所 税理士 矢島 守 (34回) 〒190-0002 東京都立川市幸町1-14-12 SHOEIビル301 TEL : 042-537-9660, FAX : 042-537-9661 e-mail : yajimail15417@jcom.zaq.ne.jp	第二東京弁護士会所属 弁護士 中村 悦朗 (35回) TEL : 03-6384-1230, FAX : 03-6384-1231 e-mail: nakamura@law-nk.jp

関東大震災における

六中義勇団の活躍

―創立百周年記念に寄せて―

太田 正行（二三回）



昨年（二〇二三年）は、関東大震災から百年にあたり、震災の歴史を継承し、人々の防

災意識を高めるため各地で多くの企画が催された。

一九二三（大正十二）年九月十一日一時五八分、関東地方を襲ったマグニチュード七・九の大地震は、死者・行方不明者約十萬五千人、罹災（全壊・全焼）建物約二九万棟という未曾有の災害をもたらした。

府立六中では、五カ月前に四中の仮校舎から新宿御苑に隣接する鉄筋校舎に移転したばかりで、当日は、九時から二期の始業式があり、式終了後生徒を下校させ、十時から職員会議が行われていた。地震発生により会議は中止、職員は屋外に避難した。校舎には

大きな亀裂が入ったが、運よく火災や倒壊は免れた。

隣接する旭町（現新宿四丁目）で発生した火災は六中校舎に迫ったが、御苑の杉木立が阻んでくれた。火は南風のため、北の新宿三丁目から五丁目へと広がり、六時間後には鎮火したが、周辺は焦土と化した。六中は、校舎焼失は免れたが、下町方面は被害が甚大で、本所区の府立三中（両国高校）は



旭町（現新宿4丁目）の罹災状況

校舎全焼、浅草区の府立第一高女（白鷗高校）は校舎が半焼した。三の中では三二名、七中（墨田川高校）、第一高女では各十二名の生徒が亡くなり、多くの生徒が罹災

した。なお、五月に完成した本校塩見朝陽舎は、ひと夏使用しただけで倒壊してしまった。

九月三日には臨時職員会議を開き、阿部宗孝校長の悲痛なる同胞愛に刺激され、罹災民救護を目的とした「六中義勇団」が全会一致で組織された。阿部校長を団長とし、団員は本校職員（教諭二三名・嘱託五名・書記二名）及び生徒の中で身体強健で父兄の許可を得た有志で組織された。発足当時、生徒は一八名であったが、十日には九八名となった。

この義勇団では、全職員と生徒有志が協力して活動した。組織としては、校内に収容する罹災民の世話をする救護部、毎日東京府庁、東京市役所、警視庁などへ出頭、情報を聴取し校内や近所に掲示し、流言飛語の防御を行い、正確な報道に努める情報部、新宿追分付近で避難民に給水したり、交通整理や道案内を行う警備部、各部の調整を行う総務部、庶務会計部を設けた。その後、四谷区役所からの配給品の分配や罹災民の衛生・保健、罹災生徒の慰問などの仕事も分担した。

九月末には、本校に収用されている罹災者は、明治神宮外苑に建てられた



新宿配給所

バラック（仮設住宅）に移り、「六中義勇団」は解散した。職員・生徒ともに献身的に罹災民収容・慰問の事業に当たったことは、本校の歴史上において特筆すべきと、当時の山根緝一郎教諭は、校友会誌「朝陽」（創立十年記念号）に記している。六中のほか、一中（日比谷高校）や四中（戸山高校）も義勇団が校内外の警備や罹災者の慰問、五中（小石川高校）は収容した罹災者

の救護のほか、罹災学校への教科書配給事務を担った。また、第五高女（富士高校）は、臨時震災救護部を設置し、裁縫部、慰問菓子部、慰問玩具部、寄贈品部に分掌し活動した。日頃の「裁縫」や「割烹」の学習の成果が生きた支援活動であった。

なお、この震災により学業継続が困難になった罹災生徒などのため、阿部校長は、東京府に対し私立夜学校設立を申請、翌年四月から「私立六中夜学」が開設された。

この「私立六中夜学」設立の申請書類に阿部校長の思いを読み取ることができる。

「児童生徒を学校に送り出す家庭も大半は焼失し、又焼失の厄を免れても、一家の生計を支持する経済的源泉を喪い、教育盛りの児童生徒をして、中途廃学の悲運に陥らしめたものが、どれほどあるであろう。学校教育を受けさせようとして受けさせ得られぬ父兄の心、伸びようとして伸びることの出来ぬ子弟の心には、それほど悲しく寂しい影がさしているであろう。体験者以外の者には到底想像さえできぬ深刻なものと思われる。吾人は帝都教育の先途を想うて憂慮に堪えず、昼間は父兄

を助けて一家の生計を支え、せめて夜間に中学教育を継続せんとする者のために、夜学校の設立を企画するに至った」

この「私立六中夜学」では、昼夜同一の教授陣により無差別な教育が実現した。教員はすべて無報酬だった。三中、四中、五中、七中にも私立夜学校が設置された。この夜学は、戦後には定時制課程に発展した。

なお、この「六中義勇団」については、昨年刊行された「百年の歩み」及び「木々の翠を見やりつ」、拙著「府立六中の父 阿部宗孝先生」もご参照くだされば幸いです。

（旧職員 一九八七年～九八年在職）

・参考文献

「東京震災録」（東京市 一九二七年）

「帝都大正震火記録」（警視庁消防部 一九二四年）

・写真

東京市役所「東京震災録地図及写真集」（一九二六年）都立中央図書館所蔵より



空の中で四十余年

中移 慶介（三一回）



遙か空高く飛ぶ飛行機を眺めながら「あの飛行機の中からはどのような景色が見られるのだろうか？」小さい頃

頃にそんなことを考えていたなあとふと思い出したのは本屋さんで何気なく手にした飛行機の雑誌を眺めていた時でした。そしてその雑誌のページを捲り航空大学校の存在を見つけた時が、これまで飛行機に乗ったことのない私が将来の職業としてパイロットになりたいと強く意識した瞬間、高校二年の時でした。

◆日米鬼教官

航空大学校を経て日本航空に入社したのは一九八四年、入社後は約半年間の入社教育と業務実習の後にアメリカ、カリフォルニア州ナパの訓練所で操縦の基礎訓練に入ります。さて私の航大での最初の担当教官は航大で一、二を争う鬼教官、みっちり鍛えられました。そしてやっぱり居ました、ナパの訓練所にも鬼教官が！しかもアメリカ



人、すべて英語で怒鳴られます。画して望まざるとも日米の鬼教官に育てられました。先般放映された朝の連続テレビ小説「舞い上がれ」の鬼教官、吉川晃司さんのように格好よくはありませんが時折見せる訓練生思いの優しい眼差しは同じでした。

◆旅客機の変遷

一九八〇年代の主力旅客機はボーイング七四七、ジャンボジェットです。操縦室には機長、副操縦士二名のパイロットの他に航空機関士が乗務していました。航空機関士とは飛行機が安全に飛ぶように飛行機の各システムが正常に作動しているか監視を続け、少しでも異常を発見したら代替のシステムに移行させるなど必要な処置を機長、副操縦士と連携して行う仕事です。操縦室内には百個を超えるアナログの計器類と各種警報灯そして数百にも上るスイッチ類が並んでおりました。家庭ではレコードからCDに、留守番電

話がちょうど普及し始めた頃です。

私は日本航空ではジャンボジェットに始まり、ダグラスDC-10、B777、B787の四機種に乗務しました。B777の退役に伴い二〇〇六年にB777型機の資格を取得しました。B777の操縦室では航空機関士の姿がなくなり各種計器類はたった六枚の液晶画面表示に変わりました。テレビがブラウン管から液晶画面に、携帯電話やPHSが普及し始めた頃です。二〇一四年に取得したB787型機は操縦系統もかなり進化してパイロットの操縦操作をコンピューターが常時監視し必要に応じてアシストをしてくれる夢のような飛行機です。その名もずばりドリームライナー、正にスマホ世代の飛行機です。

出発地から遠く離れた目的地まで向かう航法技術も地上の無線設備を主とした方法から現在ではGPSが主流、カーナビのちょっとした豪華版です。

◆自動操縦と電気飛行機

現在ドローンの技術も進歩して自動操縦による貨物の運搬の実用化への実証実験が行われています。また軍用機では無人の偵察機が主流となってきました。それでは旅客機ではどうで

しょう。先に紹介した最新鋭の旅客機ボーイング七八七では地上設備が整った滑走路であれば視界がゼロ、つまり前が全く見えない状況であっても、然も二基あるエンジンのうち一基不動作という直進性でアンバランスな状態であっても自動操縦で安全に着陸することが出来ます。これは画期的な進歩です。然しながら未だ自動操縦で離陸はできません。例え無風快晴の良いお天気であっても、です。不思議だと思いませんか？



また各システムの駆動もエンジンによる推力以外はかなり電気に依存するようになりました。そして今、脱炭素社会に向けてジェットエンジンに代わって電気モーターで飛べる飛行機の開発が進んでいます。果たして四十年後の空ではどのような飛行

機が飛んでいるのでしょうか？

◆パイロットの仕事とは

このようにこの四十年間で飛行機と飛行機を取り巻く環境は大きく変わりました。私が入社した頃は機長には一人でもできる事が求められていましたが今は違います。チームオペレーションが重視されるようになりました。個々の人間はミスをするという事が前提、それをチーム力で防ぐ、機長はそのチームリーダーなのです。

羽田空港から福岡空港に向かう便に乗務していた時の事、同じ航空路を私の後方を飛ぶアメリカの大統領専用機のパイロットから無線で揺れの状況を



2020東京オリンピックの聖火を受け取りにアテネにて
右側こちら向きは筆者

尋ねられた事があります。東京からソウルに向かうクリントン大統領が機内でワインでも楽しもうとしておられたのでしょうか？

そのような些細な事でも、あるいは例えば機内で急病人が発生したとします。客室乗務員は機内でお医者様や看護師さんがいらつしやらないか確認すると同時に緊急用の医薬品の準備を始めます。機長はその航空機の運航を継続させながらも客室乗務員の報告をもとに地上の運航管理者と連絡を取り、会社の医師の助言を仰ぐと共に近隣の適切な医療機関がある都市への緊急着陸地の選定をするように指示、管制機関には今の状況を伝えて必要な場合にすぐにその空港へ向かえるようにあらかじめ調整するように依頼します。

このように機長はあらゆるリソースを用いて情報を集め共有しお客さまの命を第一に最善の策をとるようチームリーダーとして行動する事が求められます。

◆空の衣食住

アメリカ東海岸のボストンから成田空港までの飛行時間は一三時間を超えます。このように長時間飛行する路線ではパイロットは三人乗務して交代で

休憩を取ります。パイロットは機内の何処で休憩しているか知っていますか？実は客室の天井裏に秘密の休憩室があるのです。ベッドが置かれており横仰して休むことができます。ベッドの上に座って丁度頭が天井に擦れるくらいの高さです。

そして食事は二食と軽食が用意されています。三人が同時に食中毒にならないように三種類のメニューが用意されます。勿論好みによりますがやはり日本から出発する便の食事が一番おいしいと思います。交代要員のいない路線では操縦席で膝の上にトレイを乗せて交代で食べます。パイロットに早食が多いのはこの為です。因みに今私が乗務している最も短い路線、奄美大島から喜界島迄の間の飛行時間は僅か八分、いくら早食いといえども……。

また、七八七では機内を加湿するなど居住環境も大いに進歩しているのですよ。

◆同級生と共に

高校在学中はいつも友人達とそれぞれの夢を語り合い、そしてその夢を実現させる為に励み合いました。

同級生の一人は大学卒業後に渡米し今はシアトル空港会社に勤務しています。

す。JALがシアトル便を再開する際にはビジネス上最も関わりの深い部署の長として直接お世話になりました。また別の同級生は各地空港にある弊社ファーストクラスラウンジの設計をしていています。私が乗務する便に偶然出張で乗り合わせた同級生も何人か居りました。高校時代に夢を語り合った友が卒業後それぞれの道を歩み、そして何十年も経った後に又お互いの仕事で繋がっていたなんて、それも世界を跨いで！とても愉快だと思いませんか？

そんな友人達の中の一人、僕の夢を自分の事のようにいつも楽しそうに聞き応援してくれた唯一無二の大親友が一昨年の初夏に旅立ちました。もう十数年も前でしようか、当時彼の赴任先パリのカフェでサンフランシスコから出張で訪れていたもう一人の同級生と三人「ここは新宿三丁目か？」等と笑いながらワインを気取って飲んでいたことが昨日の事のように思い出されます。彼をはじめ高校時代からの同級生達の応援が今も心の支えとなっています。六十歳の定年を機にまた違った景色が見たくなり今は関連会社の小さなプロペラ機で鹿児島の離島路線を中心に飛

んでいます。夢のセカンドステージに突入です。相変わらず同級生達の応援を受けながら気が付けば空の中で四十余年、そんな人生を楽しんでいます。我が親愛なる同級生達にこの場を借りて感謝の気持ちを伝えます。ありがとうございます。



現在乗務しているプロペラ機

（日本エアコミューター株式会社

ATR型機 機長）

◆最後に

昨年十一月に屋久島沖で米軍のオスプレイが墜落、また今年一月二日には羽田空港で日航機と海上保安庁の飛行機の衝突事故が発生し多数の空で働く仲間達がその若く尊い命を落としました。強い責任感の元、任務を完遂できなかった無念さと思うと心が痛みます。安全運航を誓うと共に心よりお悔やみを申し上げます。

ジャングル旅は止められない

若林 九重（三五回）



冒険のはじまり

かれこれ二十年以上、中南米のマヤ遺跡を巡る旅を続けている。きっかけは、友人とツ

アーで行ったメキシコ、もともと遺跡好きではあったが、ユカタン半島に点在するマヤの代表的な遺跡を巡る旅で、マヤの世界感にすっかり魅了されてしまった。当時はまだ道も整備されておらず、穴だらけの道をバスで遺跡に行き、テレビもエアコンもなく、巨大な虫たちが徘徊するロτζジに泊まる旅だったが、帰国した後もマヤのことが頭から離れず、何かにとり惹かれたようにスペイン語教室に通い始めていた。

二度目の旅はグアテマラ、スペイン語の勉強とマヤ遺跡見学のために三週間の休暇をとった。ワクワクしながら空港に到着し、無事に入国審査も終わりに外に出ると…ホームステイ先の迎えが来ていない！ 当時はネットも携帯も普及前で、連絡もとれないというトラブルから始まり（連絡不行き届きで

三日目に解決）、週末の小旅行に行けば船に乗り遅れたり（現地の時計が狂っていた）、遺跡に行くための国内線フライトに乗り遅れそうになったり（国内線だが国際線空港発着だということを知らず）と不運続き。でも、現地の人たちの親身な助けのおかげで、何とか切り抜けることができた。

国内線フライトで行ったのは、世界遺産の遺跡。ジャングルの中にある巨大遺跡は、石器しかなかった文明とは思えないくらい広く、様々な形の建造物も大きく、ワールドで力強かった。今は日本からのツアーも沢山あるが、当時は日本人を見かけることもなく、ひとりで夜まで遺跡を堪能。宿はロτζジで水だけのシャワー、木組みの壁からは虫が侵入し放題。九時になると消



灯されてしまい、真っ暗闇の中、風の音と動物たちが騒がしかったが、なんとなく大きな自由を感じた。

翌日、地図で見つけた小さな遺跡が気になり、遺跡の管理事務所で交渉して運転手とガイドを雇った。グアテマラに来てから、毎日起こる様々なハプニングのおかげで、現地の人と会話することにもだいぶ慣れてきた。遺跡までの二五キロの道は岩や泥の造形物だらけで、天井に頭を打ちながら近くの村まで二時間ほど。ジャングルを抜けると、まるで桃源郷のようなのどかな風景が広がっていた。村の中にある遺跡は、観光地化しておらず、いるのは馬ばかりで遺跡を独り占め。まだ修復されていない建造物や半分土に埋もれたままの石碑、なんとも言えない達成感で胸がドキドキした。

この旅がきっかけで、私の中で冒険心がむくむくと沸き起こり、宿や手段を現地調達に躊躇しなくなった。むしろ、現地の人から情報を集め、交渉する旅の方が楽しくなっていた。

マヤ遺跡を探す旅

マヤ遺跡は、北米メキシコと中南米のグアテマラ、ベリーズ、ホンジュラ

ス、エルサルバドルなど広い範囲に点在する。その中でも遺跡の年代幅が広く、数が多いのがグアテマラだ。考古学者に発掘され、修復されて観光地化したところも多いが、それ以外の遺跡の多くはジャングルや農園の中で埋もれたままになっている。双方含めて百七十か所以上の遺跡を探索した。

これらの遺跡を訪れるのに欠かせないのが地図。最近ではインターネットで簡単に探せるが、それまでは普通の道路マップに記された遺跡マークと、訪問した場所で聞いた情報が唯一の手掛かり。遺跡に近い拠点の町に着くと、まずは同行者人探し。少し大きな町なら役場や旅行代理店、宿、警官、店、食堂、ガソリンスタンドまで、とにかく町中で安全で親切そうな人を見つけては聞きまくり、友達のそのまた友達まで巻き込んで、運転ができ、真面目そうな人を選んで価格交渉をする。あちらから声をかけてくる人は下心が見え見えなので無視。遺跡探索は近ければ一日、遠いと三日くらいかかり、交渉した料金の他に、同行者の宿と食事はこっち持ち、更に心づけを忘れてはいけない。

小さな遺跡は現地の人でも知らない

ことが多く、持参の地図が頼り。道を間違えたり、ガソリンが底をついたり、村ごとに聞きまくっても遺跡が見つからないこともある。先住民のゲリラ組織に道を塞がれたり、火がついたタイヤが転がってきたり、車が溝にはまったり、運転手が免許不所持で警察に捕まったこともあった。山賊や危険区域には、その辺でたむろっている警察官に頼んで同行してもらうこともある。ただし、いざとなったら、助けてもらえる保証はない。彼らの正規の仕事ではなく、小遣い稼ぎだから。マヤの閉鎖的な村では迷信によって殺害された旅人もいる。とにかく、現地の人が言うことをちゃんと聞くこと、リスペクトすること、なんでもシェアすること、やたら写真を撮らないこと、が鉄則。途中で断念したことも何度かあった。が、それよりも親切な村の人たちのおかげで、知らなかった遺跡を見ることができたことの方が多い。

そんなやり方で回数を重ねるごとに現地の友人が増え、通信手段の発達のおかげで連絡を取るのも簡単になった。行き当たりばつたりの旅は減り、ワクワク感は減った気がするが、効率はよくなった。



ジャングルの旅

中小規模の遺跡の多くはジャングルと農園の中にある。農園の場合は持ち主の許可をとり、同行してもらう。ジャングルが保護地域の場合は、管理局や近隣の村の許可が必要で、村人に同行を依頼する。地図があることはごくまれで、標識もなく、村人の記憶力が頼りだ。村人の同行がない場合は、ジャングルの中で木の伐採や植物採取をしている人に出会うごとに道を聞くことになる。しかし、ジャングルは人や車が通らないと、すぐに木々が道をふさいでしまう。そういう時は、コンパスで方向を見極めるしかない。人と出会わない場合は最悪で、何度か道なき道で迷ったこともある。出会うのは良い人ばかりではなく、木の密売人と

か麻薬密売人とかもいる。特に国境はどこも危険地帯だ。

ジャングル旅は、たいがい二泊から五泊の野営を組み合わせて計画する。現地の人はハンモックで寝たがるが、私は事前に用意してもらってテントで休む。蚊はもちろんのこと、ダニ、アリ、毒クモ、サソリとかがうじゃうじゃいる。得体のしれない虫、爬虫類、動物を昼間に見るのはいいが、夜は困る。場所によってはジャガーなどの猛獣もいる。とても外では寝られない。

水はミネラルウォーターの巨大ボトルを持っていく。車が入れない時はラバのお世話になる。歩いている時は、もちろん自分で持参する。ただし、その水は飲料用で、日々の水浴びや沸かして飲む時は、川や湖などで調達する。透明なことは少なく、木の葉や昆虫が浮いていることもよくある。トイレ事情は、当然のことながら、特定の管理地区以外は天然だ。コツはいるが、慣れれば何てことはない。

現地の人々

現地の人の「人を助けたい」という気持ちは半端ない。道を聞けば、何かしら情報をくれる。ただし、全てが正

しいとは限らず、現地の友人によると、それが文化だという。何人かに聞いて、情報を集約する必要があるとのこと。

そして、車を持つている人が少ないため、どこに行ってもすぐに車がバス化する。収穫物を運ぶ人、町に動物を売りに行く人、隣町に用事がある人、誰でも構わず乗ってくる。食べ物も同じく、他に人がいれば、必ずシェアする。だから、旅前の食糧の調達は必要量の二倍以上となる。その代わり、シェアした人たちは、色んな情報をくれるし、道の障害物を除くなど、色んなところで助けてくれる。日本でも助け合いはあるが、こちらの方が、間違いなくその密度が濃い。しばらく一緒にいると、なんとなくそれが心地よく感じるようになってくる。

人間も自然の一部

ジャングル旅は、見たこともない動植物に出会える楽しみがある。現地の人は動植物のことをよく知っている。ナイトツアーと称して、懐中電灯持参でジャングルを歩くのがお気に入りだ。昼間の行程では出会えない爬虫類や虫、運が良ければネコ科の動物に出会える。しかし、昨今では開発と密猟、過失

による山火事のせいで、動植物の数が減っている。動物も植物も連鎖しており、ひとつの種が減れば、連鎖して他の種が減び、他の種が増殖する。人間もその連鎖の中に生きている。自然と人の繁栄を両立するためには、そういう知識と教育が必要だと友人は言う。彼は、電気も通っていない近隣の村の農業活動や就業支援をするとともに自然保護の教育にも力を入れている。

彼がジャングル旅に持ってきてくれた温いビールを片手に、日本では見られない素晴らしい星空を眺めながら、そんな話をすることがある。人と人の共存は、協力しあうことで解決する。そして、人と自然の共存は、人が自然を守り、自然が人に恩恵を与えてくれることで成り立つ。どちらかが裏切れば、そこには不幸が生ずる。ジャングルのこちよいい風を感じながら聞く彼の言葉は、ものすごく説得力があった。ジャングルの旅は、楽しいだけでなく色々学ぶことも多い。凝り固まった考え方をリセットして、自然の中に包み込まれながら古代の遺跡を巡る冒険旅は、なかなかやめられそうにない。



山岳部OB OG「わらじ会」

やんちゃな山男たちの時代

多田 俊明（一六回）



山岳部の古いOB OG会を「わらじ会」と言った。

残された名簿には、六中に入學して昭和二二年に新宿高校を卒業した世代から新二一回生まで、約一七〇人の名がある。多くの会員が鬼籍に入られ、名簿に残る大半は後期高齢者。このうちの八人が昨夏、数十年ぶりの小宴をもった。「山岳部」に在籍したつながりは瞬時に時空を超えて話題は尽きず、飲むほどに盛り上がった。山岳部の成り立ちを語れる人は少なくなつたが、「あんな合宿があった」「こんな山男がいた」と言う大先輩の話しや古い資料から、やんちゃな山男たちの一時代を思い起こしてみよう。

一枚の写真が物語る山岳部

この写真は、新宿高校山岳部の部室前の一枚である。第二グラウンドへの道筋、プールの底に面した部室の木製



の扉に「山岳部」と手書きされている。部員とOB、八人の姿がある。大きなザックに食料やテント、装備品を詰めている最中だ。新宿から夜行列車で夏山合宿に出発する直前であらう。六十

年前、昭和三八年（一九六三年）八月のスナップと思われる。

白い壁の建物は体育館。壁に点々と穴があいている。岩登りの練習をした跡だ。ハーケン（岩登りの道具）を打ち込み、アブミ（小さな一種の縄ばしご）をかけて攀じ登ったのではないが、大切な建物を傷つける行為。いったい誰がやったのか。

おんぼろ校舎の屋上から中庭にザイルを垂らし、岩壁を下る「懸垂下降」を学園祭で披露したことがあった。使い古しの麻のザイル。学校当局から「やめろ」といわれた記憶はない。麻に比べてはるかに強靱であるナイロンザイル切断事件を題材とした井上靖の「氷壁」が出版されたのが一九五七年のこと。世の中に「ザイル」という物体が認識され、ニュースに登場する言葉として定着した時代に重なる。

戦後の登山ブーム、旺盛な登山活動

「我らの山行き正装は古ズボンに古背広のチョッキ、足には地下足袋か日本陸軍の古軍靴。朝鮮動乱が始まりGI払い下げの古靴が手に入れば自慢、噂の死体運搬後の羽毛シユラフが更に自慢だった」植木俊也さん（5）が朝

陽二〇〇二年号「山岳部という名の集団」に記している。エベレスト初登頂、日本人によるマナスル初登頂などに刺激され、登山ブームの下、大学も高校も山岳部活動は旺盛だった。

著者は一六回生、昭和三十六年（一九六一年）入学、この年十人が入部した。山岳部の一年は、ゴールデンウィークの新人歓迎山行に始まる。女性が四人も入部したせい、五人のOBが参加して総勢二十数人の盛大な雲取山山行だった。山中でたき火ができた時代、共同装備品に鈍とのこぎりがあった。

この年、チーフリーダーは二年生青柳正規さん（15）。後の文化庁長官、朝陽同窓会長である。初夏にかけて八ヶ岳の夜行日帰り、数パーティーに分かれて山頂を目指す丹沢の集中登山など。新入生も20〜30キロの重い荷物を担ぎ、担がされて鍛えられた。

夏山合宿は上高地から穂高岳の涸沢にはいり、前穂高、奥穂高、北穂高に登ってから、槍ヶ岳、双六岳、烏帽子岳へといわゆる「裏銀座」を縦走して信濃大町へ下った。この北アルプスコースが一般的な夏合宿だった。秋は八ヶ岳や南アルプスへ。冬山合宿は年末年始の南アルプス地藏岳。登頂後、

山頂直下の斜面を下る途中、新雪の雪面に不気味な音とともに雪崩の亀裂が入り、肝を冷やしたことが忘れられない。春は谷川岳天神平で雪上訓練合宿。この年度、部の山行は計二十回にのぼる。

二年後、十八回生二年生の夏合宿は、大学山岳部並みだった。OB四人が伴って剣岳から立山、薬師岳、双六岳、



鍋釜背負って夏合宿



1967年八ヶ岳冬山合宿

槍ヶ岳へ。けがはなかったものの転落騒ぎや逃げ場のない稜線で雷雲に囲まれるなど、ヒヤヒヤの十三日間だった。当時、山岳部顧問は、背負子に地下足袋、四代目の二木順先生と後任の豊澤弘正先生の時代だった。山行には大学生OBがいつも同行した。十日間もの夏合宿、都教委から禁止されていた冬春合宿を安全に導いてくれたのは多くのわらじ会員のおかげだ。「高校生の山」としてはかなり高いレベルだが、寝食を共にし、毎夜テントの中で先生やOBが語る時折あやしげな話題も懐

かしい課外授業だった。

無届けの雪山個人山行が見つかって怒られたこともあった。三月中旬、同期生と二人、谷川岳西黒尾根を登った。一年上の先輩と出くわした。先輩はOBとの二人パーティー。どちらも学校には無届けだったはずだが「おまえたちなぜこんなところにいるのか!」と大目玉を食らった。先輩二人は前夜、猛吹雪でテントから出られず、「大小」をテントの中で済ませたという。壮絶な体験を語ってくれた。

六中からの伝統、水上林間学校

「わたしの新宿高校は、新宿とここ水上にあった」二木先生は「水上朝陽舎の思い出」(創立七十周年記念特集号・一九九二年)に書いている。朝陽舎は、上越線が水上まで開通した翌年、昭和四年(一九二九年)に完成。林間学校は戦時中の中断後、昭和二六年(一九五一年)再開し、二木先生はこの年から十二年間、「毎夏ここに勤務した」と記す。

若い山岳部OBが、入れ替わり立ち替わり手伝った。館山の臨海学校と異なり、希望者だけの行事だが人気があり、三、四班に分けた年もあった。朝

陽舎を起点に谷川岳登山、山小屋一泊の尾瀬散策を組み合わせ四泊か五泊。OBは早めに朝陽舎に到着して昼や布団を干し、殺虫剤をまき、生徒を迎え、登山に同行——。これがひと夏、数回続く。

ひやりとする出来事があった。昭和三年(一九五六年)のこと。無事谷川岳に登頂後、水上へ下山せず、新潟県側、土樽駅への道を選んだが、廃道に入り込み、時間を食ってついに日没。山岳部OB玉虫誠さん(8)、安部圭さん(同)が連絡役に夜道を下る一方、一行はたき火を炊いてビバーク(不時露営)態勢に。このとき二木先生は「予定通り露営する!」と「宣言」したという。生徒に不安を与えない計らひであり、この年、初参加した豊澤先生は歌を歌って生徒をほげました。

土樽山の家の主、高波吾策さんや駅の職員ら救援隊が現場にかけつけたのが午後十時半。午前一時、土樽駅に下山し、夜行の上り列車で未明に朝陽舎に帰り着いた。高波さんは、自著「谷川岳ヒゲの大將」(一九七一年・実業之日本社)でこの出来事に触れ、「廃道の木柵を設けて注意したのに引率者として責められても致し方ない」と手

厳しかった。

「谷川岳」といえば「遭難の山」のイメージが伴った時代である。父兄の心配もあったのではないかと推測されるが、登山経験のない生徒たちを引率しての行事が平成四年(一九九二年)まで続き、一件の事故もなかったのは奇跡に近い。頂上の爽快感、豊澤先生がふるまう山頂の野点、喫茶店「ヨネモト」——。多くの卒業生がいまも「水上の夏」を語り継いでいる。

エベレスト最高齢登頂者も

わらじ会には日本の登山史に名を残す先輩がいる。世界最高峰エベレスト(八八四八メートル・中国名チョモランマ)の一時、世界最高齢登頂者となった山本俊雄さん(7)である。エベレストの初登頂は一九五三年。その後「より困難なルート」「無酸素」「単独」など新たな挑戦がいまも続いているが、山本さんは、法政大学チヨモランマ登山隊の登攀隊長として二〇〇〇年五月十九日午前九時三十八分、中国側から頂に立った。六三歳三十一日。それまでの記録六十歳一六一日を上回り、ギネスブック登録となった。

最高齢といえは冒険家・プロスキー

ヤー三浦雄一郎さんのエベレスト八十歳登頂がいまも記録だが、その三浦さんがエベレストを滑降する試みがあった。「日本エベレスト・スキー探検隊」(一九七〇年・石原慎太郎隊長)である。八〇〇〇メートル地点からエベレストを背景にパラシュートを開いて滑降する写真が有名になったが、撮影者は隊員だった小谷明さん(4)。六中入学で五年間を山岳部で過ごし、スキーと写真に熱中した。「戦後まもなく、スキーが大衆化するずっと以前のこと、スキー板を手作りした」と懐かしむ。そういえば部室の近くにあった物置のような工芸室に作りかけのスキー板がいくつか放置されていた。小谷さんは今年九十歳。画家、写真家、エッセイストとしていまも活躍中だ。

吉永小百合さんの思い出

冒頭の山岳部室前の写真の余談――。合宿準備に忙しい我々の前を吉永小百合さんが通りかかった。小百合さんが受験した大学入学検定試験がこの日新宿高校を会場に行われ、付き添った新宿高校先輩のお姉さんと二人、昼食を取りに第一グラウンドへ向かう途中だった。大きな荷物に立ち止まってわ

れわれと二三言。何を話したか、部員はすっかりあがっていたのか、憶えていない。その夜、渋谷区の小百合さん宅にピストル強盗が押し入る事件があり、彼女は翌日の試験を欠席した。「キューポラのある街」が大ヒットしたのはその前年のこと。小百合さんがスターへの道を駆け上がったいく、ちょうどそのころの災難だった。いまも若々しくスクリーンに登場する姿を目にするとき、いつも「部室前」のことを思い出してしまう。

山岳部はまもなく「創立八十周年」

山岳部の活動はもちろん今も続いている。棚橋進さん(33)は新宿高校百周年記念誌に「山岳部の思い出」を綴り、一九七〇～一九九〇年代の活動を紹介している。OBによる指導の伝統も続いている。渡辺康隆さん(25)は創立百周年の記念山行を呼びかけて、「朝陽山岳会」設立を提唱した(朝陽二〇一五年号、二〇一六年号)。生徒会誌「轍」は毎号、部活動を紹介、新入生の入部を呼びかけている。山岳部は「わらじ会」一回生から数えるとももなく創立八十周年を迎える。



創業 6 2 年

南欧料理、パリの居酒屋風レストラン

グリル シャトー

“新宿高校” と言えば特別サービス

平日の貸し切り（7万円以上、場所代無し）好評です。
お気軽にご相談ください。

営業時間 月～金

午後 4 時 30 分～午後 11 時迄

（ランチはお休み。）

飲み放題プランもあります。

15 回生池上がやっています。



新宿高校OBの 焼肉店・ピストロカフェ



新宿高校関係者御用達の新宿高校から
徒歩9分にある、新宿生まれの焼肉店
が美味しいんですがい、



サレヤ園しと園町本館案内

〒160-0001 東京都新宿区1-15-1 Shinjuku Park 1 11F

03-5292-9211



池上町サレヤ園ピストロカフェ

〒160-0001 東京都新宿区1-15-1

03-5358-9220



食べます？

新宿高校OBの焼肉店・ピストロカフェ 新 50 回卒業

2024年「第30回 0 の会展」のご案内

新宿高校OBの美術愛好家による「0 の会展」は、
下記要領で本年も開催されます。どうぞご覧ください。
なお「0 の会」は吉江新二（故人）先生を慕うOBに
よって結成された同好会です。

会期：2024年11月18日（月）～11月24日（日）

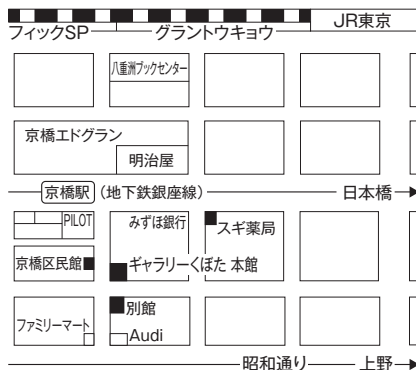
時間：午前11時～午後6時30分

（最終日は午後3時まで）

場所：ギャラリーくぼた本館 4 階

中央区京橋 2-7-11

TEL03-3563-0005（代表）



東京メトロ銀座線「京橋」徒歩 1 分
都営地下鉄浅草線「宝町」徒歩 1 分
JR「東京」八重洲口徒歩 10 分

支部朝陽会報告

北海道支部報告

二〇二三年の北海道は、北の大地を活かすことができない暑い夏でした。北海道生活四十年、いよいよエアコンなしの生活に終止符を打たなければならなくなりそうです。

さて、四一回を迎えた北海道朝陽会は、東京からお越しの方を含め十七名のご参加をいただきました。特に、今回はご友人をお誘いいただき。参加者減少に抗い、会を盛り上げていただき、幹事一同は心より感謝しております。例年通りに、皆様のお元気な姿やお話を伺い、時を忘れ、楽しいひと時を過ごすことができました。また、二次会もいつもとおり、同窓生が経営するバーで個別の深い話をする場となり、これも盛り上がりです。

今年も北海道朝陽会を二〇二四年七月六日（土曜日）午後五時から開催します。

今年の夏も猛暑が予想されていますが、夏の北海道がお待ちしております。北海道旅行の際にちよっと札幌にお寄

りいただける計画を立てていただけて幸いです。

関係各位には案内を差し上げますが、道内にお住まいの方だけでなく、出張、旅行などでもお気軽にご参加くださいますよう、幹事一同心よりお待ちしております。ご連絡は江本（三一回）までお願いいたします。

連絡先は次のとおりです。

tadasu@soleil.ocn.ne.jp 江本匡

（幹事 三一回 江本 匡）



群馬朝陽会報告

コロナが原因で長い休会を経て、やっと開催にこぎつけることができました。第七回は休会とし、令和五年十一月五日に第八回として再出発にこぎつけました。今回から総会と懇親会を別会場でおこなう方式といたしました。全員で五名という人数でしたが、その中で新規に参加いただいた方が前田光久氏（二十回）と竹田浩之氏（四八回）でいろいろな関係から話をして参加願えました。しかしながらこれまで参加いただいていた方が、体調不良などで参加いただけず、少人数の会合となりました。

今回説明のため貸会議室を高崎駅構内にて借り、プロジェクトでの本部同窓会の様子を説明いたしました。今回あまりにも間が空き、隔年開催では変化が大きすぎるため、毎年開催を提案させてもらいました。また世話人が一人であったため曾根逸人氏（三十四回）に快諾いただき二人体制とすることといたしました。これにより魅力あふれる会の運営ができることを期待するものであります。

今回全員での写真を撮ることを失念

九州朝陽会 総会報告

二〇二三年十月二三日（月）午後四時から福岡市内の中華レストランで十五人が参加し、三年ぶりに総会、懇親会を開きました。石井幸孝会長（三回）の挨拶に続き、お二人の方が講演をしてくださいました。

まず麵も打てば面も打つ本格多趣味の野上秀昭氏（十五回）から、約三か月で一つ制作される「能面について」写真。若い女性の小面（こおもて）



したため、懇親会での写真となりました。前田氏は仕事の関係で懇親会まで出席されなかったため写真に入られなかったことは残念でした。

群馬朝陽会は十一月の日曜日午後到高崎駅周辺にて今後開催していきます。軽井沢、長野、新潟からも便利がいかなと思います。今年からは金沢まで新幹線が延伸されます。この近辺の方も参加いただければ幸いです。ご近所の方のご連絡お待ちしております。

（二五回 浅原 寛人）



の制作工程を具体的に説明され、能の魅力や、市内の大濠能楽堂で近々掛けられる演目の見どころもご紹介くださいました。JR九州

の初代社長を務められた石井会長は「新幹線の行方」と題し、いま九州で大きな注目を集めている西九州新幹線（長崎新幹線）佐賀ルートの方の今後の進展について九州全体の発展の視点から大胆かつ詳細な分析を披露されました。

懇親会では新川正直氏（八回）の乾杯でスタート。参加を楽しみにされていた芝原哲也氏（十七回）が五月に亡くなられ、毎回介添え役で同席されていた奥さまがお一人で参加され、讃美歌を歌われて全員で冥福をお祈りしました。

近況報告では、リタイア後の生活ぶり、コロナ禍で集まれなかった三年間の生活の変貌ぶりに熱のこもるメンバーも多数いる一方で、子宝に恵まれて子育て真っ最中の奮闘ぶりをユーモアたっぷりに語る最若手まで、幅広い年齢層の仲間が集うことができました。最後は恒例の校歌と六中健児の歌の合唱がレストランの一室に響き渡り、岡本稔氏（十四回）の閉会の辞で懇親会の幕を閉じました。

事務局（小林牧氏 二八回、山下美智恵氏 二九回）が作成した総会資料は参加が叶わなかった四十人近い会員から寄せられた近況が載せられているほか、高校周辺の激変した最近の様子を紹介するなど充実したものです。先輩諸氏から連綿と続く九州朝陽会への熱い思いを感じずにはいられません。

（二八回 平岡 啓）

同 期 会 O B / O G 会 報 告

＊ 絢蘭会（けんらんかい）開催報告 ＊

絢蘭会は、新宿高校女子バスケ部OGの会として二〇一〇年から活動を始めました。バスケOBで女子指導をしてくださった方々のあたたかいご支援もいただき、二〇二四年三月二四日に第十三回目を開催することができました。桜はまだ咲いていませんでしたが、緑が芽吹く素敵な庭のある世田谷区岡本の松本記念音楽迎賓館において、同窓生による素晴らしい演奏の他、皆で歌を歌い楽しみました。

【音楽鑑賞の部】

- ・二六回生の森田敦子様のピアノ演奏
- ・十九回生のピアノ奏者であり作曲家の斎藤友子様のピアノ演奏
- ・バスケOBの十五回生の櫻井勝様による二胡の演奏、伴奏は斎藤友子様
- ・朝陽合唱団メンバーが参加者とともに斎藤友子様の伴奏で「ふるさと」ほか「新宿高校校歌」の合唱。最後に「六中健児の歌」
- ・当館館長でバスケOB十五回生の横田堯様によるチェンバロと由緒ある



古いピアノ紹介と森田様、斎藤様の演奏

【懇親会、参加者の近況・コメント】

皆様から様々なエピソードや近況などのお話をお聞かせいただき、時がたつのを忘れるぐらいに素敵なひと時でした。

体の不調を抱えながらも、司会の大役を果たされました太田公子様（十九回生）、ありがとうございました。

本年もご多忙の中で格調高い会場を提供いただきました横田堯様に心より御礼申し上げます。

加えて、飲み物の差し入れいただきました植村秀樹様（十八回）理恵様（二十回）ご夫妻、赤福の差し入れいただきました山川悦子様（二十回）、今年もご寄付をいただきました三浦正純様（六回）にも御礼申し上げます。

植村様より幹事を引き継いで二年目となりましたが、今年も皆様のお力を



お借りして第十三回絢蘭会を無事開催することができました。心よりお礼申し上げます。また、桜の時期に絢蘭会を開催できますように。

（二四回 龍岡 友子）

軟式野球部OB・OG会報告

二〇二三年五月十四日に会員四七名参加のもと、新宿ライオン会館にてOB・OG会が開催されました。コロナ禍があり実に四年振りの集いとなりました。

斉藤恒雄副会長（二六）の司会で、西川建人会長（十八）の挨拶、岩橋洋一顧問（三三）の乾杯発声、伊藤剛事務局長（二二）の同会活動報告・会計報告と続き、コロナ禍で会員同士が実際に集うこ



とが難しかった中で、の繋がりの維持の工夫と苦勞が改めて共有されました。役員定期改選にあたり、新しい会長に川村喜昭さん（二九）

が選出され、『当会は二回生から七四回生まで会員数五〇〇名を超える大きな組織である。会の現実的な活動は同世代のコミュニケーション維持が基本となるが、情報伝達のインフラ整備や世代を問わないイベントの企画等で補い、会全体の活性化を図っていく』旨挨拶がありました。併せて、役員、事務局長の交代も承認されました。

さらに、現役野球部顧問の大谷誠先生から、「四年振りに部員数が増え他校と組むこと



（事務局長 三十回 岩崎 彰）

なく単独チームで大会に参加できるようになった」とのうれしいニュースも報告されました。幅広い世代の会員が交流を深め大いに盛り上がったあつという間の二時間でした。

バドミントン部OB・OG総会

二〇二三年七月八日（土）および十二月九日（土）に、「OB・OG総会」が開催されました。

これは、年二回、母校体育館で卒業生同士がバドミントンの交流試合を行うというイベントで、一九七〇年代中盤から続いています。あいにくコロナ禍の三年間は開催されませんでした。この度、ようやく復活の運びとなりました。幹事の清水達記さん・梁取祐輔さん（六十二回生）の尽力と現役の協力のお陰です。十二月の総会には、約三十名の卒業生、そして顧問の飯島博久先生（社会科）と元顧問の戸塚先生（社会科）と今泉先生（国語科）が、お元気にお揃いになりました。また、卒業後に長らく



コーチをされた佐藤広行さん（二十六回生）が久しぶりにお見えになり、試合を通して若手と汗を流され、ベンチでは懐かしいお話を交わ



されていまし
た。

このような
形で五十年以
上続いたきた
イベントです
が、昨今では
バドミントン
を続けている
若手世代を中
心とした集ま
りとなってい
ます。多くの
卒業生とも連
絡が取れなく
なっていました。

ました。そこで、母校創立百周年を機
会に、過去に遡って、懐かしい同期・
先輩・後輩・顧問の先生方との「親
睦」を目的に、改めてひとつの連絡会
を作る準備をしています。

主にメーリングリストを利用するこ
とを想定しており、バドミントンから
離れている方、多忙で都合のつかない
方、遠方にいらっしゃる方などとも、
情報を共有することで、バドミントン
部卒業生の旧交を温め、その繋がりを
広げていけるように考えています。



連絡先を
登録したい
・詳細を知
りたいとい
う方は、卒
業回数とお
名前を、左
記メールアドレス
まで
お知らせく
ださい。お
待ちしてい
ます。

email: choyou.badmi@gmail.com

※朝陽同窓会HP内バドミントン部
のページに最新情報を掲載します。ま
た、他の写真もカラーでご覧になれま
す。

連絡会発起人

同窓会副会長 高橋 寛 (三二回)

安部(佐瀬)ふゆみ(三五回)

岡田(廣瀬)華織 (五三回)

朝陽硬式テニス部総会

昨年十一月二六日正午から、芝パー
クホテルにおいて、四年ぶりの朝陽硬
式テニス部OB OG会が開催された。

当日は最高気温十度以下と言う冷え
込みの厳しい日であったが、十五回生
から四一回生までの三九名が参加した。
一番多く参加されたのは二十回生の
六名の方々、毎回男女関係無く同期に
声をかけていただき、喜んできていた
だいている。

会は最初に十八回生である船山行雄
会長のご挨拶から始まったが、コロナ
禍で幹事からの活動実績はほとんど報
告するにいたらなかった。

懇親会では十五回生の岩本先輩の乾
杯のご発声の後、同じく十五回生の小
島、海野、正田先輩のお元気なお話を
聞くことが出来た。

最若手で今回初参加の四一回生の筒
井さんはJ POWER(電源開発)の広
報担当で、毎週日曜日午後九時五四分
からの日本テレビ音のソノリティを是
非見てとのPRがあった。

また同期の早川さんは東洋大学の副
学長で法学部教授、弁護士との三刀流
に加えて駅伝も担当とのこと。近年不

振の箱根駅伝での東洋大学の健闘を祈りたい。

ところでOB・OG会では若手会員の増強がかねてからの課題となっている。毎年秋には総会、懇親会をこれからも開催していく。新宿高校硬式テニス部のOB・OGであれば誰でも入会は可能である。

年会費もなく総会、懇親会に参加していただければ会員になれ、諸先輩とテニス談義ができるほか社会人としての幅を広げることが出来る。



例年最多参加の20回生

是非御興味のある方は幹事の二三回生 増田厚、二三回生 佐藤友則（090-1204-2021）、二五回生 吉安俊介（080-2252-1886）まで御一報ください。



（二三回 佐藤 友則）

生物部OB・OG会報告

新宿高校生物部OB・OG会は旧制の六中時代にあったようですが、あまり活発な活動はしていなかったようで、昭和三三年六月に総会が開かれ再出発して現在に至っています。会員は中二回から生物の教師石川太郎先生と辻三男先生に係わりのある新二十回までの限定会員です。しかし、新十九回の橋本健一氏が母校の教員になった関係で新三三回までの一部が会員になっています。現在の登録会員数は九五人となっています。

再出発当時は総会や水上（現在はない）や塩見（現館山寮）を利用した合宿（現役との共催）、葉山森戸海岸での磯の生物の採集会など行っていました。現在は年一回の懇親会のみです。今回のOB・OG会はコロナウイルスの蔓延で開催が見送られ、四年ぶりの開催となりました。

十一月四日十二時より新宿中村屋ビル八階「グランナ」で開催されました。進行係の開会宣言と永年幹事？の村田（新十二回）の挨拶に続き旧二二回の山口梅太郎氏の乾杯で懇親会が始まりました。新宿中村屋のレストランの半



分を借り切り立食での懇親会でした。
 久しぶりの開催とあって、予想より
 多い二五名の方々が参加され、和やか
 な雰囲気となりました。文系のク
 ラブには珍しい縦の繋がりがああり、世
 代を超えて近況や昔話に花が咲きまし
 た。

途中新七回の別府祐弘氏が令和二年



に教育研究功績に対して贈られる「瑞
 宝中綬章」受賞の挨拶等があり、十四
 時過ぎに閉会しました。

会員も幹事も高齢になりましたが元
 気な内は続けたいと思っています。

(十二回 村田 絃隆)



卒業四十周年記念同期会

新宿高校を卒業してから四十年も経ったのか。ありきたりだけれども、あつという間だったなという思いがやはり真っ先に思い浮かぶ。これまで、三十周年、五十歳記念、三五周年、と開催され四回目となる会だ。生憎、五五歳記念はコロナ禍の影響で開催されなかった。皆、先生方も含め、それなりのお年頃なので、安全を考えれば致し方なかった。そんな事がありながらも、なんと、今回は一〇〇名の参加とのことで、還暦を前に多くの同級生が元気なことがなによりうれしいことである。

先生方も岡昌春先生、藤澤健一先生、鈴木辰郎先生がご出席され、教え子たちは入れ替わり立ち代わりご挨拶したり、昔話、近況などを交わしたりしていた。遠方から遥々やってきた方、なかなか連絡がつかず、ひよんなことから繋がって参加した方もいて、懐かしくも、なんとなく新鮮な気分が旧交を深めることができ、素晴らしい会だった。

そうそう、鈴木先生は「あと三十年は参加する」と仰っていたので、大い



に期待しよう。我々も負けずに健康を維持し、しっかり応えられるようにしなくてはと思うところである。

今回もたくさん同期生の顔を見ることができ、話ができて、元気な皆さんに感謝が尽きない。次回の開催にも大きく期待して。

最後に、開催の労を取っていただいた幹事の皆さんに篤く御礼申し上げます。ありがとうございます！

(三五回 眞宅 弘光)



二五回生の卒業五十年

今回も目標達成できず

せっかく作ったのに、横断幕がよれちゃったのがとても残念です。一三〇人が集まりました。一番集まったのが三十年、三五年の百五〇人オバーで、四十年から徐々に減り、今回は一三〇でした。で、更に当日キャンセル（コロナ感染等による）も七名ありました。二五回は同期会の合言葉があります、「全員集合」です。目標は連絡可能な

同期の仲間が全員集まる事です。卒業二二年で初めて同期会を開催して以降これを目標にしていますが、いまだ達成できていません。

我々二五回の頃は複担任制という珍しい制度が行われていて、ハクラスで二人ずつ担任の先生がおられたので、十六人の先生方が担任です。卒業五十年ともなれば、亡くなられた先生も多く、今では三人の先生方が今もお元気ですが、その中で当日参加してくださった先生はたった一人。幸田先生だけです。

令和五年十月二八日の土曜日、場所はベニレベニレ、十四時受付開始十四時半に開会しました。実はこのベニレベニレでは、一週間後に二二回が、二週間後には二十回が同期会を開催しています。立食パーティーの二時間はあつと言う間に時間が過ぎ、最後は行間体操を踊り、「六中健児の歌」を歌って中締めとなりました。新宿高校の歴史の中でも行間体操を踊らせたらトップの鈴木裕太（旧職員）は当日参加してましたが、足元に少し不安があり、卒業三十年の頃撮影したビデオを上映しました。

二次会はベニレベニレのすぐそ



ばの丸港水産です。一年先輩の織岡さんが経営する居酒屋です。全店貸し切り状態でした。一次会が立ちっぱなしだったので、座ったままの二次会はいぶん楽に感じました。と同時に、一旦座ったら、席はそのまま移動しないで、これまた二時間懐かしい仲間との話に終始してました。

楽しかった時間も十八時半にはお開きを迎えました。今回も「全員集合」は達成できませんでした。また次回の五五年への宿題となりました。でも、否だからこそ言い続けます。次こそは「全員集合」です。

(二五回代表幹事 渡辺 康隆)



コロナ禍を乗り越えて(二三回生)

二〇一八年六月十五日 前回は、この日に一一八名の級友が集まった。そして二年後の再開を約束した。しかし、二〇二〇年から蔓延したコロナが立ちだかった。同年三月の幹事会で議論するも、二〇二一年六月まで延期して様子を見るとしか決められなかった。

その後も開催目途は全く立てられなかった。

二〇二二年秋、闘病生活を続けていたN君の訃報が届いた。彼の葬儀で級友からそろそろ集まりたいとの話が出て来た。感染の底を狙って計画すれば、クラス会は可能だと思った。二〇二三年三月、コロナ感染データを睨みつつF組クラス会を開催した。十三名のクラスメイトが集まった。少なからず介護で感染リスクを拾えない方、病気で参加出来ない方がいた事を考えると盛会だったと思う。

この実績を踏まえ各クラス幹事と議論を進めたが、捗々しい進展は無かった。高齢化に伴う仲間の訃報、重い病気の話を聞くたびにこのまま同期会を開催出来なくなるのではないかと焦燥感が募るばかりであった。

閉塞した状況ではあったが、ゴルフ同好会などの集まりは続けられていた。その席で同期会開催について意見を聞くも種々事情があり賛否両論であった。その後、E組幹事の鈴木さんより同期会開催のご提案を頂いた。共同代表幹事の松野さんと二人で議論するも、彼はクラスターを恐れて開催に慎重であった。ただ、屋外開催なら感染リス

クが低く可能であるとの結論をえた。これを踏まえてクラス幹事会を招聘し議論した。結果、屋外開催は障害が多過ぎて見送られた。しかし、換気の良い屋内会場を確保するとの条件で開催が決まった。

日程調整、会場選び、名簿整備などの実務を進め、二〇二三年十月二十九日に新宿のリストランテベニーレベニーレで一〇一名の同期が賑やかに集まる事ができた。ほぼ半世紀ぶりに会えた懐かしい友もいた。

最後になるが、開催に向けてご尽力頂いたE組鈴木さんH組斉藤さん始め各クラス幹事の皆さん並びに参加頂いた同期の皆さんに深く謝意を示したい。

(二三回 天田 守久)



卒業五五年同期会 楡の木会

楡の木会(二十回生)の卒業五五年同期会が二〇二三年十一月十一日(土)、新宿三丁目「ベニーレベニーレ」にて開催された。予想に反して一〇〇名を優に超える参加が実現し、大

変盛況な宴となった。これも幹事団身を粉にした尽力の賜物であった。

当初は、五十年同期会に続く五年後の六十年同期会を企画していたが、「先はどうなるか分からない。五年は待てない!」との悲痛な叫びが五月に寄せられ、バタバタで急遽の開催となった。まだコロナ禍が収まった訳でもなく、また後期高齢者世代の七五才が間近に迫って行動が不活発になっている我々の状況もあって、どれだけ人数が集まるのかとの大きな懸念を抱えつつ会場手配等準備を進めた。今回、老幹事団の作業負荷軽減との方針のもと、先生方の来賓なし、同期生の出し物なしで、歓談主体の簡素なプログラム構成とした。

都立新宿高校 20 回生（楡の木会）
卒業 55 周年同期会



2023 年 11 月 11 日（土）
14 時 15 分～16 時 15 分
会場：レストランペニーレベニーレ
（新宿三丁目レインボービレッジ 8 階）

～～～プログラム～～～

ウェルカムドリンク

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶・乾杯
3. 歓談（クラス別写真撮影、なつかしの映像）
4. 業間体操、健児の歌
5. 中締め、全員集合写真
6. 閉会の辞



結局、想定を大きく上回る一〇三名もの参加者だったことで、収支がぐっと改善される見通しとなったことに伴い、キャッシュバックを実施することになった。終始軽妙な司会進行を務めた G 組大瀧さん、E 組坪内さんから、一大発表としてポチ袋で渡されることが会場で披露された。これが大うけ、皆お年玉をもらった気分で当日のサプライズイベントとなった。途中、恒例の業間体操、健児の歌もあり、更には当時の懐かしい映像が投影される中、旧交を温めるべく、そこで歓談の輪が広がっていた。あつという間に時間が過ぎ、クラス写真、集合写真を撮り終えたあと、再会を約し散会となった。クラスによっては二次会があつて盛り上がりが続いた様であった。老体の我が身にも元気がもらえ、楽しくワクワクする日々を過ごそう!と決意する機会となった。

今後、六十年同期会に繋げるために、各クラス会の開催やボランティアによる企画を実行することでお互いの無事を確かめる活動を推進して行きたい。
（二十回生 代表幹事 島田 生徳）

十九回生同期会

二〇二三年十月二九日(日)に新宿三井クラブにて、十九回生(一九六七年卒)の第十二回同期会を開催しました。コロナ禍の影響で前回の同期会から四年ぶりの開催となりましたが、出席した同期生は八四名でした。毎回のように出席される方が多いものの、中には四十数年ぶりに出席された方もいらっしゃいました。

冒頭、十九回の代表幹事で朝陽同窓会の幹事長でもある橋本健一様による開会の挨拶があり、その中で母校や同窓会の現状等もご披露されました。その後、恒例の前回の同期会以降の物故者(今回は六名でした)への黙祷を捧げたのちに、お待ちかねの歓談タイムとなりました。

やや開催間隔が伸びたこともあつてか、会場のあちらこちらで、食べることも忘れて在校当時の思い出話や近況報告等で談笑される姿がみられました。また、年齢相応なのでしょうか(我々は誕生日に後期高齢者の仲間入りをしたばかりです)、早くから着席される方も多くなってきました。

歓談の間には、同じく代表幹事の太



田(旧姓中川)公子様の軽妙な司会により、遠方から出席された方等へのインタビュも行われ、和やかな雰囲気広がっていました。

中盤にはこれも恒例のクラス毎の集合写真の撮影が行われ、最後に全員で校歌と健児の歌を斉唱したあと、

吉岡喜人様による閉会の挨拶でお開きとなりました。その後は、三々五々二次会に向けて新宿の街に散っていきま

した。出席された皆様、開催に携わったクラス幹事の皆様、大変お疲れ様でした。次回の開催は未定ですが、是非多くの同期生の皆様にご出席頂きたいと思います。

(十九回 大石 和夫)

卒業六十年いちご会

卒業六十年。それぞれの家族や地域社会、教育機関、企業、団体から尊敬され、生きた証を身に着けた旧友たち、中には叙勲、褒章を受けた同期が五年ぶりの再会。北沢タウンホールスカイサロンには、その身に纏ったものを脱ぎ捨て、卒業のときのそれぞれの持ち味に帰った友情の盃が六十個並びました。

独特の優しい眼差しで同期の取りまとめに尽くしてくる西出君から、「同窓会会長を二回に渡って担ってくれた青柳(正規〓元文化庁長官)を労い、卒業六十年で集まろうや。でも忙しいから助けて」のメール。頼まれるのが大好きないちご会の8クラスの幹事がこれに呼応、俺にできるのはパティ準備だけと手を挙げた筆者。でも、直面したのは、七八歳、七九歳が一体何人が集まれるのだろうか?「会費を抑えて楽しく」を求めている最適会場を決めるにはこれが肝心。

早速、級友の参加動向を探る面倒な連絡を各幹事が引き受けてくれ、日に日に変わる申し込みとキャンセルの管理を一手に引き受けてくれた小林征男

君、「細かい心配は要らないよ、積立金がある」と示唆してくれた羽毛田実君。これで準備は軌道に乗りました。

当日の大切な司会進行役は、はじめから筆者の動きを支えてくれた川合昭夫君と馬場悠男君、他の集まりなら来賓席という豪華な配役。この報告書作成もご助言をいただきました。

また「当日はなんでもするよ」と忙しいはずの窪田道夫君や船津重宏君など幹事たちが次々に申し出てくれました。集合写真はその作品を出展する実力者井上武夫君、スナップ写真は機会を逃さない献身的な大木繁男君、会場設営の先頭は頑強そうな和田勝君、会場での老々健康管理役は医師の谷村玲子さん、受付は安心感抜群の引間美登里さんと、会費を死守してくださった横山明子さんが引き受けてくれました。前回の司会コンビだった横山郁子さんの支えも感じました。結局ご都合が付かなく会えなかった本多武君や河東杉雄、晴世夫妻も励ましてくれました。なんと暖かい輪！ 準備役の胸には九月二九日の会合を待たず熱いものが。何十年ぶり、あるいは遠方からの参加者のスピーチは、熊本から参加の小林弘昌君、元局アナの神山喜久子さん



青柳前会長（左）と
池辺晋一郎さん



西出紀久さん



受付に並ぶ元若人たち

や画家で元岐阜県立美術館館長の古川秀昭君など多彩でした。憶えきれないほど多い文化団体の代表を務める青柳正規君と、融通無碍、言葉遊びに長けた「詩がねえ作曲家」で、二週間前のバスデーで交響曲第十一番を世に問うた池辺晋一郎君は、さすがに話慣れていて、中身が濃く、笑わせてくれました。

この会に参加できたみんなは、お互いの無事を確認し、じつに幸いなひとときを過ごすことができました。そして、何らかの理由でこの暖かい場に来られなかった友の気持ちを思う機会でもありました。最後には、川合君の発案で「今日の日はさようなら」を、いつまでも絶えることなくと、余韻を会場に残してのお別れとなりました。世界中の人々が、分断の圧力に押し流される危機のなか、同じときと同じところで学んだ「心のふるさと」の大切さを痛感した同期会でした。

(二五回 横田 堯)



八回生同期会（五年振りの開催）

我々、昭和三十一年卒の八回生は今年の四月で卒業六七年になりました。五年振りの同期会の総会を令和五年十二月七日十二時三十分からベニレベニール新宿で開催しました。好天に恵まれ四十名が集い、高校時代に戻り、楽しいひと時を過ごしました。

総会の司会は前回同様、小泉澄さんをお願いした。開宴後、これまでに逝去が確認された同期生一七一名のご冥福を祈り、黙禱を捧げました。乾杯の音頭は軽井沢から来てくれた岩永嘉弘さんをお願いした。続いて、代表幹事の滝沢孝之さんから母校新宿高校の現況と朝陽同総会の活動状況（昨年に迎えた母校の創立一〇〇周年記念事業の事、等々）の報告がなされた。

その後、歓談タイムに入った。今回も、我々の歳を考えて、着席・ビュッフェ形式にした。今回の展示関係は小林晃一さん、鶴田康信さんをお願いした。皆さんからの返信葉書、百周年記念誌（百年通史と百年史誌）等が展示され、皆さんに閲覧して貰った。更に我々の卒業五十周年、卒業六十周年の特集記事、逝去者一覧、朝陽同窓会便



りを皆さんに配布し歓談の一助にした。

今回は所要傷病の後遺症など、家族の介護、本人の急な体調不良等々で欠席した方も多々ありましたが、出席した方々は高校時代に戻り、懐かしく語り合いました。恒例の全員の集合写真が高田憲彦さんをお願いした。総会の最後は恒例により南徹さんのリードで全員で校歌を斉唱した後、三年後の米寿記念の開催まで毎年やる事を決めて、十五時にお開きとしました。

(代表幹事 小林 曉生)

七回生同期会報告

二〇二三年十一月八日（水）新宿ベニレベニレで開催、参加者は付添いの方も含めて四五名、車椅子でお嬢様と参加された方もいました。会費は八千円（付き添いの方 六千円）でした。昨年はコロナ禍での開催が問題となりましたが、今回でいよいよ最後の同期会となることでした。しかし前回担当したG組からバトンを受け取ったH組は動ける幹事が私だけとなり、ひとりで丈夫かと心配しました。

でも、前回幹事の藤本允さんの応援と、毎回面倒を見てくださる吉村悟さんの支援のもと、なんとか開催にこぎつけました。またクラス幹事の方々が、開催十分前に集合、座席への誘導と集金。名札配りそして近況報告の配布まで完璧にして下さりその友情に心を打たれました。

吉村さんの司会で開会の辞、物故者紹介、母校と朝陽同窓会の近況報告が行われ、続いて乾杯、食事となり、おいしいコース料理で歓談しました。その後吉村さんが長時間をかけて二二回生の写真集から探し出した懐かしい初代校舎の写真上映がありました。正門、

校舎、校庭、体育館、プールなど、みんなで過ごしたあの若い時代に思いをはせました。懐かしさのあまり同期会終了後に母校まで行き、朝陽同窓会の事務室まで訪ねられた方もいました。

そして何人かのスピーチの後いよいよお別れの時が迫ってきましたが、参加したメンバーから「このまま解散は残念だ。次回もやろう」と言う声盛り上がり、来年も米寿祝賀会を開催することに全員一致で取り決め、その日の内に次回の会場も確保しお開きとしました。

なお、長らく近況報告を作成して下さった小出富江さんが体調不良で今回も欠席されましたので、代わりに事務局の小山晴美さん（二五）が一二三四名の返信葉書のコメントを入力して下さいました。担当幹事のパソコン能力の弱さに助っ人を申し出てくださったのでした。百周年記念行事等で忙しかったにもかかわらずのご協力に感謝申し上げます。朝陽同窓会の事務局の方々がすこし身近に感じられました。

後日「当日急用が出来、やむを得ず欠席したから」と言って事務局まで会費を届けてくれた方が居たり、「近況報告を欠席者に送りたい」と言って自

費で送ってくれた人もいたりしました。やってよかった同期会でした。



7回生同期会 近況報告

2023/11/8

この写真は七回生が同期会の都度発行している近況報告書です。記事は報復はがきの返信を集めたもので、当日の出席者全員に配布します。

（七回 高屋（正木）千鶴子）



十一期生の定例会月例会「二木会」にもくかい

今春五〇〇回の金字塔を迎える

高校時代の友人との付き合いは、小中学や大学の友人達とのそれと比較すると一味も二味も違う。余計な遠慮や思惑無しに自由に交流を深めることが出来る……これは岡部会員が代表幹事を務めていた時に述べた言葉だ。

十一期生の任意団体「二木会」は、将にこれを四十年間実践して来たように思える。本年四月で月例会第五〇〇回を迎えるに当たって以下、二木会の実態と活動内容をご報告申し上げ、同窓生諸氏のご参考に供したい。

第一回は今から四十二年前、一九八二年

我々十一期生は、六十年安保を経て六四年の東京五輪の前後に社会人となり、戦後経済の本格的な高度成長の一端を担ぐこととなった。同期会は大卒後約二十年を経過した八一年初秋、ある二人の同期生の業務上の電話から始まった。仕事の話は五分で終り後は旧友たちの動向情報に終始した。そして結論として同期会開催を呼び掛けてみようということになった。二人は分担してまずは各クラスより最低二人の幹

事を定め会合に事前参加してもらうよう依頼。その呼びかけに応じた旧友は何と四十人超！集まった旧友の熱意に二人は圧倒され、同期会開催は即刻既定の事実となった。直ちに名簿作成・会場交渉・当日運営などの作業分担がなされ、第一回同期会は翌八二年（S五七）の二月末に三光町の新宿大飯店大ホールで開催された。短期間の準備ながら一八〇人余の出席があり、同期卒業生四四〇人の四十%を超える参加率を記録し大成功裡に終了した。

この時の幹事の提案で二木会スタート

その後の幹事慰労会の席で提案されたのがこの二木会の集いとなった。

今回の同期会は三年後と決められたが三年間は長い、今回苦勞した幹事だけでも毎月一回集まったらどうか！直ちに衆議一決、毎月第二木曜の夜に集まろうということになった。ということで名称は『二木会』、翌月八二年四月の第二木曜日、二木会の輝かしき第一回の会合が二十名近い参加者を得て新橋駅前前のスナックで開催された。時

は将に、戦後日本の高度経済成長がようやくやうやく円熟期に差し掛かる頃であった。

二木会、その長寿の秘訣：

この二木会は、毎月二十人超の人が参加され、歴史的には四十年を越えるほどの長寿の会となった。これには、『同期生に会いたい』という強い情熱の他に、独特の運営や活動の仕組みが支えとなった。四十年・五〇〇回に亘る活動を支えた工夫などを後輩諸氏の皆様のためにも整理しておきたい。

A. 月例会運営の実際

第一に二木会は、組織上同期会でもクラス会でもなく、十一期生全員の親睦・交流目的の任意団体であること。そして運営上は、来る者は拒まず、去る者は追わずを大前提に、誰もが何時でも参加できるといふ、同期会とは別の親睦会としての気安さを運営上の原点とした。開催日・時間・会場・企画内容などはメールなどで事前連絡してあり、事前予約無しでも気楽に立ち寄れるアットホームな雰囲気を目指した。開催曜日や時間帯はその後変わったが、その他は全く昔の儘だ。

第二は適切な会場設定。会員は皆働

き盛りの多忙な人々であるから、極力都心の交通の便のいい所を探求した。新橋駅前から、虎ノ門、青山、原宿など流浪の民を続け、九十年代に六本木の会員制レストランに定着。現在は丸の内の明治生命ビル地下に収まって十数年、地下鉄や東京駅にも近く会員各位の好評を得ている。

第三の要因は、毎行われる「プレゼン」であろう。月例会の進行は概ね左記の三時間となっている。

1. 同期生や会の動向報告／お久し振り会員の挨拶／分科会活動報告・予定 (計一時間)

2. 会食・懇談 (二時間)

3. 同期生によるプレゼン (二時間)
プレゼンのテーマは本人の研究・業務体験・趣味や日常所感など。最近では、平松会員の「新刊教養本の読書解説シリーズ」は皆の共感を得て既に十数回を数え、大森会員の「新宿の地理と歴史」は過去四、五年に互り計十回で先年完結した。酒を楽しみながらも見識が広げられるという利点が歓迎されている。

更に最近では、プレゼンの代わりに会員の子人数人による本格的アンサンブルの生演奏なども実施され大好評を

得ている。五〇〇回記念日の当日もこのグループによる祝賀コンサートが実施された。

四番目には、毎月メールで会員の自宅PCに配信される「にもく通信」の貢献も高い。会発足の初期には堀江会員による自発的レポートが全会員に送付され、その後、より客観的・網羅的内容に変身していった。

現在は幹事による活動報告・予定や、講演レジメを発表者が原稿作成し嶋田編集長に提出、より客観的な記事となつてメール配信が継続されている。

この配信が、二木会の継続的發展に大きく寄与した事は間違いない。

最後に「歴代幹事体制」に触れておきたい。毎月の二木会運営に苦勞してきた歴代十組の幹事団の熱意と努力があつてこそ今日の五百回があると言える。特に二〇〇八年より十二年間に互り代表幹事を務め上げられた故稲田稔君の行動力と責任感の特筆さるべきものであり、それは現在の若林氏にも受け継がれている。

B. 各種分科会の紹介

次に月例会以外に、主として趣味の世界で同好の士が集まつて活動してい

る分科会を紹介したい。

1. ミーガン研究会 長塚 宗久

(氏名は分科会幹事…以下同様)

我々十一期生は、二年次にノーベル文学賞受賞者ゴールドワージーの短編「The Apple Tree」を英語の副読本として原文のまま読まされた。都会の上流社会の学生アシャーストが旅の途中で出会った片田舎の少女ミーガンに恋をしてしまう悲恋物語。

この作品に感激した森山君(故人)など五人が、本会第一号の分科会として八十年代から九十年代前半にかけて活発に活動した研究会であつた。後日、小説の舞台ダートムアのミーガンのお墓にお参りした会員もいた。

2. テニス会 嶋田 健雄

毎年春・秋の二回、定期的に小田原テニスガーデンにて三時間テニスを楽しんでいる。アフターテニス(会食)付き。女性二人を含む八人前後が集い、八三歳とは思えぬ若さでコート駆け回っている。驚きはテニスの腕が年々上達している方がいること!

そもそもは八五年頃、二木会の席で話が出て年に一、二度不定期に様々なコートで開催。九一年には次頁の掲載写真のように、五十才過ぎの十六名が



「週刊現代」1991年11月9日号カラーグラビア頁より引用

集まり、「週刊現代」のクラス会訪問企画「集まれ！同級生」のグラビアページを飾った。皆さんの笑顔がなんとも若々しい。

3. 歩く会(山の会・里の会)大森康晴 歩く会は「二歩会」なる名称で既に一三〇回の活動を記録している。発端は九十年に山岳部出身の大森が岡部・田中(収)両君を誘い、新宿駅南口からその昔母校前を流れていた玉川上水

の取入れ口である奥多摩羽村まで甲州街道・五日市街道計四二kmを一日で歩き抜いたことにある。

爾来、都内の街歩き・近郊の里歩き・関東や中部地方の尾根・高原歩きなど多彩な企画を実施。五十代には、谷川岳・熊野古道や岩手早池峰遠征なども試みたが七十代以降は体力的制約や万が一の事故回避などの観点から山の会・里の会に分け慎重に活動してきた。有難いことに今迄に事故はない。

4. 囲碁クラブ

嶋田 健雄

年六回、偶数月の第二木曜に新宿囲碁センターにて開催。参加者はアマ七(八段から一)二級クラスまで十(十五名位)。皆さん熱心でいつも夕刻まで対戦が続く。

女性も二名参加。以前から二木会には囲碁愛好家が多く仲間内で対局が行われていたが九一年からは会員を募り大会を開催。〇八年には正式に会則を作成して二木会囲碁クラブがスタート。十一年からは九年間に亙り毎年秋に湯河原の囲碁民宿にて一泊合宿の囲碁大会を開催、楽しみな行事であったがコロナ禍のため宿が閉館となり中断中。囲碁も認知症予防に効果大とか？健康維持のためにも今後も続けていきたい。

5. 料理教室

今川 加代子

料理教室が始まったのは九九年。かつてのモータリッ社員も還暦直前となり、そろそろ家庭サービスに備えねばというところで、栄養と健康を兼ねた「男の料理教室」を始めて欲しいとの依頼があった。会場も二回目からは自由が丘の「緑ヶ丘文化会館」となり、以来毎回二十名以上の参加者で二五年続き昨年十二月には第八二回に達した。

途中、単身赴任先で腕を磨いた前川会員が夫人共々約十年間講師を務めてくれた。年三(四)回の料理教室としては、だしの取り方・魚のおろし方などの基本から世界の料理までと幅広い。教室では自由に(?)料理をする人や、時には禁断の酒瓶が十本も並ぶことも。地元の長塚会員には会場予約やごみ処理などで大変お世話になっている。

6. カラオケ(ニモカラ)会

村上 興雄

会社業務で扱っていたカラオケについての二木会講演が契機でカラオケ分科会が発足、毎月例会後に歌う会を持つこととなった。

会社で企画・事業化したレーザーカラオケは、コイン収入でお店も儲かりお客さんも増えると評判になり、瞬く間に日本全国に拡大。その後東南アジア

ア・アメリカ・欧州にも進出、最後の中国では、三十以上ある言語の標準化に役立つと中国共産党の推奨も得ることが出来た。

今は二木会の一員として毎月カラオケを楽しんでいる。

C. その他の二木会年間行事

1. 塩見合宿

小林 雅司

一九八八年の第三同期会の後、新宿西口思い出横丁での三次会の席で水泳部OB加藤君から「部の先輩として毎年寮に行っている、八月後半であれば一般OBも歓迎される」との話がありその年急遽計画、それ以来三一年間に互の恒例行事として毎年開催されて来た。初回は竹芝栈橋からI君の大型ヨットで往復することになり、中々スリリングな海の旅であったが、以降は海はたる經由の陸路となり、二泊三日の中年オジサンの天国が定着した。酒や囲碁を楽しみ、政治談議に花を咲かせた。

当初は寮二泊であったがやがて寮・民宿一泊ずつ、そして最後には海老料理に魅惑され民宿二泊に変転した。

2. 「0の会」作品見学会

吉江新二先生を中心とした美術部OB・OGのグループが毎年秋に京橋で展

示会を開催する。十一期生からは神田君（故人）を始めとして長塚、藤村、田中（正）、文挾の諸氏が出展しているが、例年日付を決めて二十〜三十人が会場に集まり作品を鑑賞する。その後近隣の中華料理店を貸切つての夕食会が定例コース。

3. 世田谷梅まつり梅見の会

小田急線代田〜梅が丘の北側に羽根木公園があり、そこで毎年二月に世田谷梅まつりが開催される。

その実行委員長を長年務める二木会会員の斉田氏の取り計らいでここ数十年梅見の会が開かれている。毎回十五〜二十人が参加。紅梅・白梅を愛でた後は皆で早い夕食・ダベリング。

D. 十一期生の「同期会」について

同期会は当初は三年間隔、二〇〇〇年以降は定年退職者も増えたことから二年間隔となり、直近では昨年六月に第十七回が約七十名の参加を得て開催された。これは通算二年半に一回の頻度となる。当日には毎回、改定名簿と返信葉書記載の近況を集めた報告集の二冊の配布が恒例となっている。

最後に海外や地方、更には外出困難者も自宅で参加できるオンライン分科

会が、依田会員を中心に企画実施され軌道に乗りつつある。年四回開催予定。乞うご期待。（十一回 大森 康晴）



竹原会員のご令嬢を中心とする4人の音大卒業生による
二木会500回記念演奏会

二二回3Cクラス観桜会
桜の下でまた会いましょう！

二〇二四年四月五日（金）。皆それなりに忙しくて三月集合は難しく、まあ遅咲きの八重くらいは咲いているだ



ろうと思って設定した日程が、ぴったりに当たってしまいました。ほぼ満開の新宿御苑での観桜会。

十四名が集まって桜を堪能し、昔話に花を咲かせ、それぞれの卒業後の人生色々にちよつとした感動を覚え、また今の自分の幸せに改めて感謝しながら、楽しい時間を過ごしました。

学園紛争で授業がない中、塀に開いた穴から通った新宿御苑。皆でバレーボールで遊んだり、パトカーに追いかけられたり：懐かしく思い出されます。新宿高校にもお邪魔して、7階建ての校舎も覗いてきました。

卒業後、え？ 五四年！ 亡くなった友も増え、生きてるうちに会っておかなくちゃ、という焦りも感じます。さあ、また来年、桜の下で会いましょう。それまで皆さんお元気で！

写真は、旧姓での表記ですが、後列左から後藤、丸山、柴田、前、森、加藤、小森谷。

中列左から古見、小澤、今井、深沢。前列左から中村、曾田。右上の瀬戸は遅刻して、懇親会場のライオンで待機中でした。

（二二回3C 中村 治樹）

朝陽合唱団団員募集

創立百周年記念事業の第一弾として2015年1月より活動を開始。

昨2013年9月24日都立新宿高校創立100周年記念音楽祭を「なかのZERO大ホール」で行いました。100周年記念音楽祭のために立ち上げた合唱団でしたが、存続希望者が多く、また新たな歩みを始め、引き続き小峰先生のご指導を受け、原則月2回（土曜か日曜の午前 中2時間）練習を重ねています。

新宿高校の卒業生ならどなたでも、20代から80代までと年齢層も幅広く、合唱や音楽経験も様々な方々が参加しています。同窓会総会やホームカミングデーに加え、東京都合唱祭や新宿合唱祭他外部の演奏会にも参加しています。

同窓生という事で、練習だけでなく団員同士の談笑も楽しいです。合宿も計画しています。初心者も大歓迎、まずは一度見学にいらして下さい。

朝陽同窓会宛連絡お待ちしております。

（朝陽合唱団団長 12回 森 安恵）

創立百周年記念事業 その他イベント

母校創立百周年記念音楽祭

昨年九月二十四日(日)なかのZERO大ホール(東京都中野区)にて創立百周年記念音楽祭が開催されました。七〇〇名を超える多くの卒業生や知人・友人にご来場いただき、朝陽合唱団、六声会合唱団、管弦楽部OBOG、音楽部現役生、同窓生有志、教職員の総勢約一〇〇名が参加し、盛大な音楽祭となりました。校歌から始まり、四部ステージ構成の全二六曲を合唱しました。

第一ステージでは管弦楽部OBOGの伴奏による「Ave Verum Corpus」
「鷗」の他「落葉松」などの朝陽合唱団ゆかりの曲、第二ステージでは「春秋の歌」(新樹会・新十回生の歌)、「ひとしお物語」などの新宿高校ゆかりの曲、第三ステージでは六声会合唱団メンバーが中心となった男声合唱による「柳河風俗詩」、第四ステージでは様々な趣向をこらしたステージ構成での唱歌メドレー「ふるさとの四季」
そしてアンコールの後、最後に「健児



の歌」の会場全員合唱で二時間を超える記念音楽祭を締めくくりました。

皆で作りに上げた記念音楽祭が成功裏に終了できましたのも多くの方々のご理解、ご支援、ご指導の賜物です。これまでご指導いただきました小峰先生、

田先生、ピアノリストの大野さん、半澤さん、小林さんに感謝致します。また当初よりご理解、ご支援いただきました同窓会の方々、当日サポートいただきました方々、そしてご来場いただきました多くの方々に感謝致します。あ



りがとうございました。

百周年記念事業の一つとして結成された朝陽合唱団は、二十代から八十代までの同窓生が集い、二〇一五年一月に第一回の練習を開始して以来、途中新型

コロナウイルス感染予防のために練習が出来なかった時期も含め八年八月、その間新宿区合唱連盟に加盟し、毎年六月の「新宿合唱祭」、十一月の「音楽・コーラスのつどい」への参加や、ホームカミングデー、総会などの総会行事への参加、自主発表会などの経験や多くの練習を経て、ようやくこの日を迎えることが出来ました。

今回の記念音楽祭により一つの区切りを迎えましたが、今後また新たな目標に向かって練習を重ねていくことと致します。歌が好きな方、合唱に興味がある方、一緒に歌ってみたい方のご参加をお待ちしております。

(二四回 稲見 一政)

百周年記念美術展

創立百周年記念祝賀会で実施予定だった合唱演奏、同窓生美術作品の展示は、コロナ禍により祝賀会が中止となり、実施出来ませんでした。

これを受けて、美術作品展示を祝賀会とは切り離して実施すべく、同窓会事務局と「0の会」で検討を進めました。0の会は、新宿高校の美術教諭であった故吉江新二先生を慕う同窓生プロ作家・同好の氏の集まりです。0の会からは、澤登丈夫14、藤井忠夫14、野崎賛平14、中久木均25の各氏が準備委員として美術展の企画・準備を行いました。

会場は「エコギャラリー新宿」を候補としました。ここは登録団体になれば、一般より早く予約申込ができれば、一般より早く予約申込ができれば、利用料金は一般の半額となるなどの特典がありましたので、同窓会事務局から登録申請を行い、登録団体として認められました。

二〇二三年に発行された朝陽七二号および同窓会HPで、記念美術展の案内と出品作品の募集を行いました。しかし、八月末の締切には応募者が七名と少なかったので、募集期間を十月末

まで延ばしました。また、九月二四日に開催された百周年記念音楽祭の会場で、記念美術展のチラシ、0の会の二十回記念作品集を来場者に配布するとPR活動を行いました。こうした活動で、最終的には招待作家八名、0の会会員十五名、一般応募者十一名、展示作品数六四作品が集まりました。同窓会所有の初代校舎、二代目校舎の写真パネルも展示することにしました。

会期は申込抽選の結果、二〇二四年二月十二日から十七日と決定しました。開催期間中に延べ約四〇〇名という大勢の方々にご来場いただきました。卒業生、同窓の友、部活の先輩後輩、知人、友人、家族と、会場のあちこちで楽しく盛り上がる光景が見られました。特に二四回生の皆さんが多くご来場。また、「記念音楽祭」を通じて仲良くなった同窓生同志が誘い合つてのご来場も多かったです。会場が中央公園内ということもあり、卒業生でない方も散歩の途中でご来場いただきました。

招待作家コーナーは展示作品のみならずそれぞれの作家の作品集や作家活動の紹介本なども展示（澤登氏発案）。大変見応えのあるコーナーとなりました。吉江先生の作

品の前では懐かしい思い出話をされながら鑑賞される方が多かったと思います。（同窓会事務局）



上のQRコードから
全ての出品作品をご
覧頂けます



案内看板と会場外観



第三一回東京校歌祭

令和五年十二月三日（日）、気持ちの良い秋晴れの中、国立オリンピック記念青少年総合センター・カルチャードームにて、第三一回東京校歌祭が開催されました。水泳部に所属していた私は、現役時代の練習でプールを利用していましたが、校歌祭で久しぶりの会場訪問となり、懐かしい気持ちで駅からの道のりを辿りました。

今回は、コロナ禍による三年の中止を経て、久しぶりの開催に加え、初めての会場でもありましたが、コロナ禍前に勝るとも劣らぬ賑わいで、各校自慢の校歌や愛唱歌を披露しました。



我が校は朝陽合唱団を中心に三十一名の参加があり、ピアノ伴奏が小林悦子さん、小平彩さん、指揮は牛尾宏さんでした。三十分程度の直前練習を行い、六中校歌、



新宿高校校歌、六中健児の歌の三曲を歌い上げました。特に、新宿高校校歌は朝陽合唱団による混声四部のパート分けで素晴らしいハーモニーを奏で、どの校にも負けない歌唱となりました。六中健児の歌では、リズムに合わせこぶしを振り上げるお馴染みのパフォーマンスで、コロナ禍疲れを吹き飛ばし、聴衆を勇気づけました。

また、前回まで長らくピアノ伴奏を引き受けていた小峰先生は、令和

二年に異動されましたが、今大会では母校の豊多摩高校に参加されており、大変うれしい再会となりました。

日頃、母校を思い出す機会はあまりないかもしれませんが、埃っぽい体育館や暑かった館山寮。みんなで声をそろえて校歌や六中健児の歌を歌えば、そんなあの頃の思い出がふつと甦ります。一年に一度、校歌祭で青春を思い出してはいかがでしょうか。



次回三

二回は、令和六年十月二十七日（日）杉並公会堂での開催です。皆さんお誘いの上、ぜひご参加ください。

（五九回）田中 走



新たな大遠泳

七年前、南房総の海で伝統行事の臨海教室をやってきた他校の卒業生と合同大遠泳をやりたいと思った。

昨年の春、そんな同じ思いを持つ他校の卒業生の有志と新宿で集まり、傾酒しながら実現に向けた準備を毎月重ねていった。

昨年からはじまった秋の館山寮の開寮期間に合わせた九月十七日（日）、九段中等教育学校、新宿高校、立川高校、戸山高校他（五十音順）の二九回（期*）〜六八回（期）の卒業生三八名による史上初の合同大遠泳、「第0回房総連合大遠泳」がついに実現した。当日は海況に恵まれ、追い風の中、見物海岸から香（こうやつ）の浜までの一マイル強（約一・八km）を小休止をはさみながら約一時間四十分かけて全員で完泳した。

同じ南房総の海で泳いできた他校の卒業生との親睦と連携を深め、お互いの母校の伝統行事を応援し、卒業生による新たな伝統を興したいという思いではじめた「房総連合大遠泳」

今年も九月のシルバーウィークに「第1回房総連合大遠泳」を実施する。

さらに多くの他校の卒業生やその仲間や家族たちと「館山の海」で泳いできたい。

そして、「第十回房総連合大遠泳」では、日比谷高校のある鋸南町の勝山から館山寮のある香の浜まで、各校の遠泳の海域をリレーしながら十マイル強（約十八km）泳ぎ、EKIDENならぬ『E N E I』を世界に発信していきたいと思っている。

*新宿高校の卒回に相当するものを立川高校等では期と呼称しております。（38回水泳部OB 鈴木ニルス仁志）



← 見物海岸で出発前の準備運動

完泳を目指して元気に泳ぐ



全員無事完泳し寮の前の浜で記念撮影

母 校 便 り

着任のご挨拶

学校長 堀川 勝史



今年度四月一日付で、中部学校経営支援センター学校経営支援担当部長から、校長として着任しました堀川勝史と申します。

新宿高校は、一昨年、百周年を迎え、創立以来「全員指導者たれ」の校是の下、「大家族主義」に根ざす教育活動を脈々と展開しています。また、「進学指導特別推進校」の指定と「進学重視型単位制高校」の特色を生かして生徒の希望進路の実現を図っています。こうした伝統と実績をしっかりと受け止め、継続・発展させていく所存です。生徒には、将来の「夢」をもち、一度しかない高校生活を、その「夢」の実現のための三年間と位置付け、「本質を見極め、課題に正対し、チームで」を合言葉に、学習・学校行事・部活動等を通して、人として成長してほしいと願っています。そして、卒業後

は、諸先輩方とともに朝陽同窓会員として、社会で活躍してくれることを心から願っています。

退任のご挨拶

前学校長 藪田 憲正



令和三年四月に着任以来、三年が経過しました、この三月、都立新宿高等学校を離れることとなりました。

この三年間、朝陽同窓会の皆様には、百周年記念式典をはじめ、様々な御支援をいただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

思えば、着任した当時は、新型コロナウイルスが蔓延し、多くの学校行事が中止や延期を余儀なくされる日々でした。とりわけ、前任の加藤校長から本校に



とって重要な行事であるとして引き継いだ臨海教室を中止せざるを得なかったのは痛恨の出来事でした。百年続く館山の海をその年入学した七六回生にも見せてやりたいと十二月には館山への遠足を実施しましたが、そこでは台風被害により痛ましい状況になった館山寮と少しでも臨海教室の雰囲気を感じてみたいと駆けつけてくれた朝陽水泳会の皆さんの姿がありました。

その後、朝陽同窓会、財団法人朝陽会の皆様のおかげをもちまして、館山寮が、真新しいながらも昔の面影を残す姿に再建されましたことは、学校といたしましてもうれしいことでした。

また、令和四年十月には府立六中、都立新宿高創立百周年記念式典を迎えることができました。いまだコロナ渦ということですが、同窓生の代表の方にか御参加いただけなかったことは残念ではありましたが、この三月の卒業式での送辞で卒業生代表が百周年記念式典をきっかけに本校の長い歴史の中で困難に思いをいたし、自分たちも伝統をつなぐ大切さに気付いた旨の言葉があったことで、記念式典の意義をあらためて感じました。

三年間、学校の教育活動にとっては困難の連続でした。そんな中において新宿高校の伝統を次代につなぐことができたか甚だ不安ではあります。また、コロナ禍もひと段落したなかで様々楽しみなこともありますが、残念ながら退任することとなりました。四月からは、都教育委員会で学校支援を業務とする中部学校経営支援センターで学校経営支援担当部長として勤務することになりました。これまで新宿高校の生徒に最高の高校生活と考えてまいりましたが、今後はより広く都立高校生全体を考えることになります。

本当に名残惜しくはありますが、これまでの朝陽同窓会の皆様の御厚情に心から感謝申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。



母校便り

副校長 成島 功二



令和五年度は、丸三年間に及んだ新型コロナウイルス感染症への嚴重な対策に大きな転換が示された中で始まりました。新宿高校としても創立百周年を越えた最初の年、ということと、アフターコロナ、アフター百周年を考えさせられた一年間となりました。

【四月】七八回生として三二〇名を迎え入れました。校内におけるマスク着用は求めない、という方針に切り替わりましたが、まだ多くの生徒がマスクを着用していました。放送部が下校時の音楽として、逝去から間もなかった坂本龍一先輩の「TECHNOPOLIS」を流していたのが印象的でした。

【五月】午前晴天午後雷雨という、これも印象的な運動会が駒沢公園で行われました。コロナの五類移行もこの月で濃厚接触者も出席停止のルールが廃止となりましたが、新宿高校ではそれほど大きな混乱はありませんでした。

【六月】第六七回戸山戦が行われました。駒沢公園の体育館が改修で使用できなかったこともあり、体育館競技は両校に分散して行いましたが、各会場の様子がネットで生配信され、大型モニターを用いたパブリックビューイングが行われるなど、コロナ対策で学校へ一気に浸透したネット文化の恩恵がありました。

【七月】臨海教室が二組合同・二泊三日の形式による全4期の行程で行われました。内、一つの期は台風によるうねりの影響で残念ながら遠泳を中止しましたが、己に挑戦し、友を励まし、六中健児を歌う伝統がしっかりと受け継がれていました。

【九月】来場希望者が多く見込まれる朝陽祭は難しい運営となりました。結果として、中学生とその保護者を除き、関係者以外の入場を制限しましたが、それでも七〇〇人以上の来場があり、開催前後にはインフルエンザの流行がありました。修学旅行は広島・京都を周遊しました。

【十月】学校説明会で希望者に対して生徒諸君が個別に行う校内の案内や紹介、入学に向けての個別相談が好評でした。百年積み上げてきた校風は現代の

中学生にとっても魅力なようです。

十一月 都立学校の合同説明会、スピーキングテストの会場という外部への貸し出しが続き、生徒諸君が土日に学校へ入れない週末が続きました。都内屈指の立地の良さという要素の負の側面かもしれません。

十二月 合唱コンクールが中野で行われました。コロナの影響により中学時代を含めて合唱経験の少ない世代であり、完成度が心配されましたが、本番にきっちりとは帳尻を合わせることでできるのも新宿生の特徴かもしれません。

一月 三年生は共通テストからいよいよ受験が始まり、一、二年生には昭和記念公園でマラソン大会がありました。

二月 元々の人気に加え十月の学校説明会が効いたのか、七九回生を目指す受験生が多く集まり、受験者数、倍率ともに都立学校内で一番となりました。受検で都立学校は六日間の休業になったのですが、新宿生はこの機会にしっかりと自宅学習に力を入れていた、はずである、と受け止めています。

三月 卒業式が行われました（この記事の執筆は二月末に行っておりす）。新宿高校の三年間で磨いた力による活躍を祈って送り出します。

令和5年度主な行事

始業式	4月6日
入学式	(78回生) 4月7日 男子144名 女子176名
運動会	(駒沢オリンピック公園) 5月11日
戸山戦	6月7日
臨海教室	7月26日～8月7日
朝陽際	9月2日・3日
修学旅行	(広島・岡山・兵庫・京都) 9月27日～9月30日
合唱コンクール	(なかのZEROホール) 12月21日
マラソン大会	(昭和記念公園) 1月18日
卒業式	3月15日 男子147名 女子169名
修了式	3月25日

令和6年4月1日付け教職員異動（敬称略）

非常勤教員は除く

*転入

堀川 勝史	(校長)	中部学校経営支援センター)
春田 和彦	(国語)	国分寺)
佐藤 藍	(国語)	板橋)
井出 亮太	(数学)	江北)
西 志穂	(数学)	青山)
小島 明	(数学)	多摩科学技術)
土生川 創	(物理)	九段中等教育)
今門 泰久	(生物)	南多摩中等教育)
伊東 龍司	(保体)	荻窪)
田中 柊彩	(保体)	目黒大島中学校)
大竹芙美子	(美術)	世田谷泉)
幸野 成希	(英語)	青梅総合)
佐上 文子	(ICT 支援員)	
田中ひろみ	(技能)	清瀬特別支援)
樟山 誠	(技能)	農産)
石原 大輝	(主事)	中部学校経営支援センター)
河野 陽	(主事)	新規採用)

*転出

藪田 憲正	(校長)	中部学校経営支援センター)
藤原さおり	(国語)	北園)
湯田 雅也	(国語)	小平)
日比野智子	(数学)	上野)
升田 佳佑	(数学)	研修センター企画部)
松本 幸博	(数学)	日比谷)
安藤 直樹	(物理)	駒場)
天海 創	(生物)	文京)
長谷川正一郎	(保体)	大崎)
米原 紗那	(保体)	荒川第七中学校)
森 文典	(美術)	新宿時間講師)
吉川 彰規	(英語)	日黒)
吉見 孝雄	(技能)	王子特別支援)
田重田 聖	(技能)	園芸)
小平 由香		(江戸川都税事務所)
柏熊 黎	(主事)	田柄)

2024年度入試 76回生・既卒生 合格状況

国公立大学合格状況

難関国立	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
東京大	2	1	3	
京都大	1		1	
東京工業大	3	3	6	1
一橋大	5		5	
合計	11	4	15	1

※国公立医学部医学科 1名 (76回生 琉球大)

旧帝大等	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
北海道大	2	2	4	
東北大	8		8	3
名古屋大	2		2	
大阪大	1		1	
九州大	0		0	
神戸大	0		0	
合計	13	2	15	3

国立大	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
帯広畜産大	1		1	
弘前大	1		1	
岩手大	1		1	
筑城大	2		2	
筑波大	9		9	1
埼玉大	2	1	3	
千葉大	10		10	
お茶の水女子大	2		2	
電気通信大	1		1	
東京医歯大	1		1	
東京外語大	4		4	
東京海洋大	1		1	
東京学芸大	2		2	
東京農工大	6		6	
横浜国立大	7	1	8	1
富山大	0	1	1	
山梨大	1		1	
信州大	1		1	
京都工芸繊維大	1		1	
愛媛大	1		1	
熊本大	1		1	
琉球大	1		1	
			1	
合計	56	3	59	2

公立大	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
国際教養大	1		1	
東京都立大	13	1	14	
横浜市立大	2		2	
新潟県立大	1		1	
長岡造形大	1		1	
静岡文化芸大	1		1	
合計	19	1	20	0

大学校	76 回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
防衛大学校	1	1	2	
国立看護大	2		2	
合計	3	1	4	0

国公立大等合計	102	11	113	6
---------	-----	----	-----	---

私立大学合格状況

私立大（難関）	76回生	既卒生	合計	推薦等（内数）
早稲田大	80	11	91	6
慶応大	26	2	28	3
上智大	62	1	63	1
東京理科大	44	20	64	
合計	212	34	246	10

私立大 (GMARCH)	76回生	既卒生	合計	推薦等/内職
学習院大	25		25	
明治大	145	18	163	
青山学院大	58	3	61	
立教大	96		96	1
中央大	49	8	57	1
法政大	79	5	84	
合計	452	34	486	2

私立大	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
成蹊大	20	3	23	
成城大	12	2	14	
武蔵大	11		11	
国学院大	6	1	7	
明治学院大	15	1	16	
合計	64	7	71	0

私立大	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
日本大	30		30	
東洋大	33	6	39	
駒澤大	11	6	17	
専修大	7		7	
合計	81	12	93	0

私立大(女子大)	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
学習院女子大	1		1	
共立女子大	4		4	
昭和女子大	3		3	
白百合女子大	1		1	
聖心女子大	1		1	
津田塾大	11	2	13	
東京女子大	28	2	30	
日本女子大	20	3	23	
			0	
合計	69	7	76	0

専門学校・その他合格状況

専門学校	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
尚美ミュージックカレッジ	1		1	
服部調理師	1		1	
合計	2	0	2	0

私立大	76回生	既卒生	合計	推薦等(内数)
桜美林大	1		1	
北里大	3		3	
杏林大	1		1	
工学院大	9		9	
国士舘大	1		1	
芝浦工大	23	4	27	
順天堂大	1		1	
聖路加国際大	2		2	
玉川大	3		3	
多摩美術大	1		1	
千葉工業大	2		2	
東海大	1		1	
東京医大	1		1	
東京医療保健大	3		3	
東京家政大	2		2	
東京慈恵医科大	4		4	
東京女子医大	1		1	
東京電機大	4		4	
東京都市大	8	1	9	
東京農大	15	1	16	
東京薬科大	4		4	
独協大	2		2	
日赤看護大	2		2	
日本体育大	1		1	
文教大	3		3	
星薬科大	4		4	
武蔵野大	6	2	8	
武蔵野美大	3		3	
明治薬科大	7		7	
明星大	1		1	
神奈川大	1		1	
国際医療福祉大	1		1	
甲南大		1	1	
大阪医薬大	1		1	
岩手医大	1		1	
横浜薬科大	1		1	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
			0	
合計	124	9	133	0

私立大等合計	1004	103	1107	12
--------	------	-----	------	----

アルバム 2023年度 臨海教室



海岸で準備体操 ▲



◀ 浜に設営された本部



隊列組んで遠泳 ▼



▲ ボートを浜へ

楽しい食事 ▶



◀ つかの間のお別れ

部活動紹介

男子バレーボール部

顧問 湯田 雅也

【繋ぐ】

- ①糸・綱などで一か所に物を結びとめて離れないようにする。
- ②切れたり離れたりしている物を続け合わせる。
- ③長く続くようにする。絶えないようにする。
- ④とらえる。『広辞苑』

パリ・オリンピックへ向け、バレーボール男子日本代表に大きな注目が集まっている。九〇年代、中垣内祐一氏をはじめとした人気バレーボールプレーヤーが数多くいて中学校の同級生の女子たちにも人気があった。私もその後、バレーボールを始め、朝日健太郎氏に憧れた。

あれから二五年以上が経ち、結果が出ない低迷期が続いたが、昨年は六七月に行われたネーションズリーグで、バレーボール男子日本代表は主要国際大会では四六年ぶりのメダル獲得となる三位に入った。九〇十月のパリ五輪予選では連日、国立代々木競技場

に万人超が押し寄せ、間近で見た代表チームのプレーに私も部員たちも多くのファンも歓声を上げた。激戦の末に五輪出場権を獲得して世界ランキングは四位まで上昇し、今年のパリ・オリンピックでもメダル獲得に期待がかかる。

このことは、関係者たちの思いが繋がった結果だ。バレーボールは繋ぎのスポーツである。一球一球に思いを込め、次の人へとボールを託す。時に失敗をしながらも最後まで繋ぐとする姿勢にいつも感動させられる。順境でも逆境でもバレーボールを楽しむ。人もボールも繋がることに感動する。そして、仲間と悲喜交々を共有する。それはなんと素晴らしい時間だろうか。

本校男子バレーボール部は、六月で三年生が引退する。今年ももうすぐその時期がやってくる。最後の一瞬までボールを繋いでこの二年間の全てをぶつけて欲しい。下級生はその背中を見て自分たちのバレーボールを楽しんで欲しい。そして時が経ち、人が変わっても様々な思いを繋ぎながら、男子バレーボール部の活動が【繋ぐ】ものであること、素晴らしい時間を過ごせるものであることを願ってやまない。

二〇二三年度活動報告

体育館練習・火・金・土日いずれか

練習試合・四十三回

関東大会予選二回戦

インターハイ予選二回戦

夏季合宿七月十七～二十日

夏季都立校大会ベスト三十二

全日本一次予選三回戦

新人大大会二回戦

冬季都立校大会出場



◆ 令和 5 (2023) 年度朝陽同窓会総会議事 ◆

2023年度は母校にて対面形式・書面同時開催で行われ、以下を承認。

1. 役員人事

会長： 新任 三上彩子(18)、退任 青柳正規会長(15) 顧問に、
副会長：新任 渡辺信久(34)、小田島肇(38)
退任 西出紀久(15) 顧問に

2. 2022年度事業報告と決算

- ・百周年記念募金累計：8,617万円、館山寮再建募金累計：4,056万円
- ・記念式典(学校主催)10月23日に同窓生60名余参加
- ・100周年記念事業 記念名簿／通史：3月刊行、100年誌：5月予定
- ・記念祝賀会：中止、記念音楽祭：2023年9月開催に決定
- ・朝陽奨学金：4名に給付、

3. 2023年度事業計画と予算

- ・百周年記念募金は2024年3月まで継続、新規基金の検討を開始する
- ・朝陽奨学金：15名に給付予定(150万円)
- ・記念音楽祭は9月24日 なかのZEROホールで開催
記念美術展は2024年2月開催を目標に推進、記念庭園を設置する
- ・館山寮エアコン：熱中症対策のため全室エアコン設置、予算600万円

記 念 講 演

講演題目： 疾風に勁草を知る

講演者： 元厚生労働大臣 塩崎恭久さん(22)

講演概要： 総会の3ヶ月前に逝去された同期の友人坂本龍一さんとの親交・思い出を語られてから、自身が所属する「勁草日本イニシアチブ」・進められた議員立法などのご紹介。

「失われた30年」と言われる日本の失敗の原因が、イノベーション政策の失敗と人口政策の失敗にあると、世界の状況と日本の現実を比較分析しご説明いただきました。

そして、成長維持のためには、働き方改革、子供にやさしい国作りのための里親政策、子供の健全な発育は特定の大人との愛着形成が不可欠として、児童福祉法における理念規定の抜本見直し、社会的養育の形成と政府数値目標等をご紹介下さいました。

講演する塩崎さん(22)



発表資料は上の
QRコードから
ご覧下さい。

母 校 支 援

令和4年度母校キャリア教育支援

(1) キャリアガイダンスへの講師派遣

1年生の文理選択の参考に母校が開催する先輩の体験談講演会です。以下の表の講師の方々により、2023年度は2月7日に実施されました。講師左の数字は卒回です。

21	津川 清一	ITU 元議長	35	地引 達弘	東京海洋大学 教授
24	酒井 邦彦	元広島高等検察庁検事長	43	神余 崇子	城西国際大学経営情報学教授
24	佐野 良雄	名古屋大学大学院客員教授	48	原田 将史	名古屋大学大学院客員教授
25	篠原 厚子	清泉女子大学教授	48	須田 健太郎	電通クリエイティブディレクター
31	中越 一統	公認会計士	50	庄司 匡宏	東京大学社会科学研究所教授
34	細矢 剛	国立科学博物館植物研究部長	60	楠木 綿太	音響機器メーカー SE
35	関根 聡	理化学研究所			

(2) 月刊誌「進路部通信」“先輩からの言葉”への寄稿

母校進路指導部が発行する月刊誌「進路部通信」に毎号1ページ、各界第一線で活躍する同窓生が、現役生徒の進路選択の参考となり、励みになる文章を寄稿しています。

令和5年度発行の85～94号に以下の方が寄稿なさいました。

発行号	氏 名	卒回	寄稿タイトル
95 (2024.3)	常岡 泰治	35	目標を持ち続けること
94 (2024.2)	青柳 正規	13	それぞれの、一回しかない人生
93 (2024.1)	入月 康晴	33	自分の可能性を信じて突き進みましょう
92 (2023.12)	中移 慶介	31	空飛ぶ仕事 パイロット 40 年
91 (2023.11)	菅佐原 茂	35	高校生のころの私へ
90 (2023.10)	大西 (神余) 崇子	44	失敗しても、なんとか楽しく生きるには
89 (2023.9)	安永 正法	31	商売は人助け
88 (2023.7)	入澤 武久	36	弁護士という選択肢を考えてみませんか？
87 (2023.6)	瀧澤 佑三絵	49	開業鍼灸師という生き方
86 (2023.5)	岡本 琢朗	33	里親の取り組み
85 (2023.4)	佐々木 靖孝	49	自分を信じて

寄稿内容は同窓会HPからご覧いただけます。

(3) 奨学金支給

あい基金や100周年記念募金を原資として、母校生徒に給付型奨学金を支給しております。

令和5年度は以下の通りの支給を行いました。

学年奨学金10名(各10万円)、就学奨学金 3名(各10万円)、

あい奨学金 3名(各10万円) 合計 160万円

朝陽同窓会会員諸氏の寄贈著書紹介

令和5年度にも卒業生から以下の著書の寄贈をいただきました。

著者名	卒回	書 名	出 版 社	価 格
遠藤 誉	13	習近平が狙う「米一極から多極化へ」	ビジネス新書	¥1,700
小林 肇 (共著)	15	風よけの気候景観 暮らしを守る屋敷林・防風林	古今書院	¥4,500
北島(岩波) 理恵子	33	分水 三崎口行き ぬり絵	ジャンクション・ハーベス	版木社 版木社

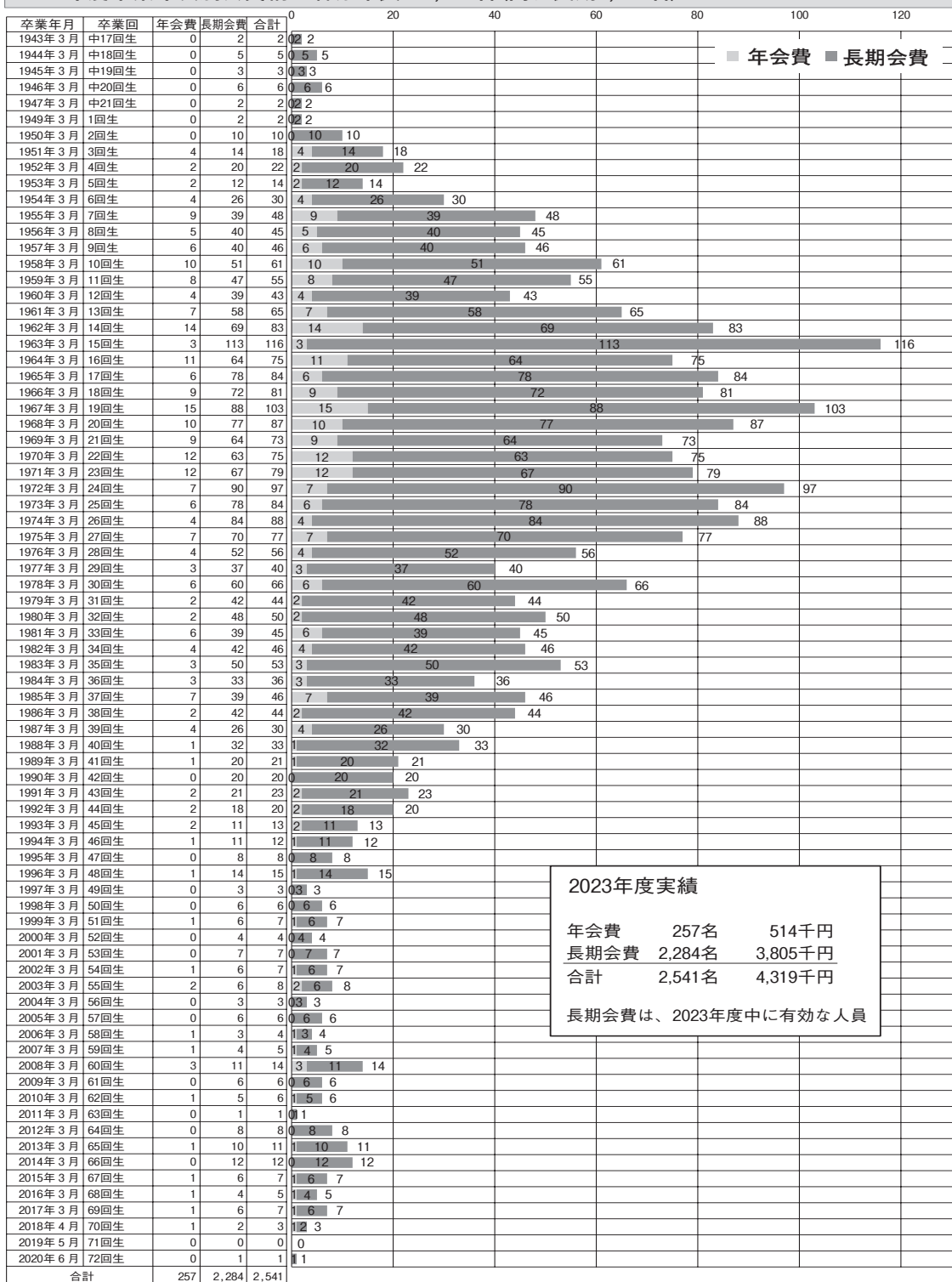
卒業年次別会費納入状況 ― 会費納入にご協力をお願いします ―

同窓会報「朝陽」の発行、母校支援など、同窓会活動はすべて皆様からの会費で運営しています。

2023年度の会費納入状況は下表の通りとなっていて、全体としての納入率は17%で、このままでは今後の運営に支障が出かねません。

年会費は2,000円、長期会費は10,000円（6年間）です。同窓会維持・発展のために、一層のご協力をお願いします。

2023年度卒業年次別会費納入者分布表 2,541名（内、長期2,284名）



令和6年度朝陽同窓会総会議案

令和6年度の同窓会総会は、昨年同様、母校に集まって行う対面開催と、この朝陽紙面を使った書面開催の2本立て・同時開催とします。

それぞれの形式での、議案に対する賛否表明は以下のように行ってください。

- 対面の場合：開催日当日会場での「記名投票」
- 書面の場合：本誌73ページの賛否表名用紙に記入して郵送またはFAX、あるいは、同窓会HPからの賛否表名のいずれかの方法で行ってください。

－FAX宛先：050-3730-0138

－郵送宛先：160-0015 新宿区内藤町11-4

都立新宿高等学校内朝陽同窓会

－HPから賛否表名を行う場合は右のQRコードから

同窓会HPを開いてください。



*議案の採決は、それぞれの案件につき、有効投票数の2／3以上の賛成で可決とします（規約第11条）。なお、記名なき投票は無効です。

議案1 役員人事（以下敬称略）

*役員は2年毎改選です。今年は改選の年にあたり全役員改選となります。

*以下の通り、提案します。

会長

*再任 三上彩子 S18

副会長

*再任	小林暁生 S08	01回～10回から選出
	柴田真樹 S18	11回～20回 々
	渡辺康隆 S25	21回～30回 々
	高橋 寛 S32	31回～40回 々
	楠木綿太 S60	51回～60回 々
	安部ふゆみ S35	運動部OBOG会から選出
	小田島肇 S38	支部朝陽会 々
	西尾信子 S24	旧教職員 々
*新任	須田健太郎 S48	41回～50回から選出
	高橋 進 S20	文化部OBOG会 々
*退任	小野瑞城 S34	

監事

*再任 中越一統S31、廣田勝彦S44

幹事長は代表幹事会が推薦し会長が委嘱、顧問は会長依頼によるため総会承認の必要はありません（規約第13条、15条）が、参考としてご紹介します。

幹事長

*新任 太田正行S23

*退任 橋本健一S19 顧問委嘱予定

議案 2 2023年度事業報告と決算

・朝陽あい基金

* 発足 2024年4月より

* 目的 在校生へのたゆまぬ支援

* 対象 奨学金給付を中心とした支援

館山寮臨海教室支援、部活動支援、留学支援、キャリアガイダンス支援、
進路部通信合冊作成援助、図書購入補助などにも展開
母校の校内環境整備への協力

* 原資 100周年記念募金のうち奨学金給付用に積み上げた1,500万円より

* 募金 趣旨に賛同する会員からの寄付を継続的に募る

* 企画 西尾信子S24を中心に吉村悟S07も加わり事務局で作成し、役員会や代表幹事会に提案

・広報強化

* 目的 同窓会活動への会員の参加を推進し、併せて会費の増収を図る

* 組織 広報強化委員会を設置

* 委員 安部ふゆみS35、須田健太郎S48、原田将史S48、楠木綿太S6
(事務局から) 林慶治郎S18、橋本健一S19、寺澤忠興S22、

* 活動 同窓会HPのより充実、SNS利用を検討

・記念音楽祭

* 日時 9月24日(日) 開場13:00、開演13:30

* 会場 なかのZERO大ホール、700名強の観客で会場はほぼ満席

* 出演 朝陽合唱団、六声会合唱団、音楽部OBOG、管弦楽部OBOG、在校生音楽部

* 指揮 小峰和則(元本校音楽教諭)、樋本英一S25、山田茂(六声会指導者)

* 司会 小出アキラS57

* 祝辞 三上朝陽同窓会会長S18

・記念美術展

* 日時 2月12日(月)～17日(土)

* 場所 エコギャラリー新宿

* 展示 63作品

* 来場 延べ400名

・記念庭園

* 設置 創立100周年記念碑を2月1日(木)に設置

記念碑書は田久保裕之S52、本校体育科教諭による

* 除幕式 3月15日(金) 76回生卒業式終了後

戴田校長、三上同窓会長、橋本幹事長挨拶

同窓会事務局員、本校教諭、新卒業生、在校生も多数参列

・朝陽奨学金

* 給付 学年奨学金10名、就学援助金3名 2023年10月
あい奨学金3名 2024年3月

・100年誌刊行

* 日時 2023年6月

* 部数 2,000部

* 題名 「木々の翠を見やりつゝ」

* 配布 寄稿者や寄付金多額納付者、現任教職員に送付

* 販売 朝陽同窓会員に向けて「通史」とセットで販売開始

・事務局人事

* 退任 小山春美S25 2023年12月

西出紀久S15 3月 顧問は留任

* 新任 西尾信子S24 2月 兼副会長

前田文子S31 4月

2023年度決算案
2023年4月1日より2024年3月31日まで

△印は予算に対して実績が少なかったことを示す 単位:円

勘定科目	予算	実績	差異	差異理由(予算→実績)
●一般活動				
＜収入＞				
入会金	3,390,000	3,465,000	75,000	226名 → 231名
年会費	616,000	514,000	△ 102,000	308名 → 256名
長期会費	3,980,000	3,604,406	△ 375,594	2388名 → 2162名
寄付金	100,000	35,000	△ 65,000	
朝陽広告料収入	442,000	370,000	△ 72,000	
名簿発行賛助金還元	2,209,000	2,394,500	185,500	名簿の追加購入者増
預金受取利息他	1,200	10,637	9,437	
財団受託手数料	360,000	360,000	0	
小計	11,098,200	10,753,543	△ 344,657	
＜支出＞				
事務局手当	3,810,000	3,807,000	△ 3,000	
通勤交通費	288,000	298,338	10,338	
会議費	60,000	94,097	34,097	
通信費	211,500	253,206	41,706	
光熱費	260,000	221,077	△ 38,923	
消耗品費	476,000	801,140	325,140	プリンター入替による消耗品費増
記念品・慶弔費	90,000	30,000	△ 60,000	
銀行郵貯手数料	130,600	100,003	△ 30,597	
取扱手数料	156,000	37,026	△ 118,974	会費納入者が予算より少なかった
減価償却費	566,872	274,018	△ 292,854	IT設備更新を一部取りやめた
出張旅費	30,000	0	△ 30,000	
名簿印刷発行費	130,000	0	△ 130,000	発行を取りやめた
朝陽発行費	4,011,450	3,922,583	△ 88,867	
総会費	330,000	337,096	7,096	
支部助成金	210,000	52,820	△ 157,180	支部総会未開催
校歌祭費用	60,000	50,000	△ 10,000	
朝陽祭参加費	30,000	2,600	△ 27,400	
活動助成金	100,000	66,000	△ 34,000	
母校支援費	215,000	101,384	△ 113,616	学校からの要請がなかった
予備費	500,000	0	△ 500,000	未使用
小計	11,665,422	10,448,388	△ 1,217,034	
一般活動収支	△ 567,222	305,155	872,377	
●100周年記念事業				
＜収入＞				
100周年記念募金	13,832,868	2,492,176	△ 11,340,692	過大予算計上
100年誌売上	5,320,000	806,000	△ 4,514,000	"
小計	19,152,868	3,298,176	△ 15,854,692	
＜支出＞				
記念音楽祭	1,006,350	888,898	△ 117,452	
100年誌	6,375,600	5,002,048	△ 1,373,552	発行費用削減
記念庭園	900,000	973,720	73,720	
記念美術展	720,000	310,674	△ 409,326	会場費など経費の削減
銘板作成	300,000	0	△ 300,000	次年度に実施を繰り延べ
朝陽合唱団支援	30,000	30,000	0	
募金趣意書等	1,178,000	697,500	△ 480,500	通信費などの減
親睦向上引当金	0	20,894,865	20,894,865	(注)
小計	10,509,950	28,797,705	18,287,755	
100周年記念事業収支	8,642,918	△ 25,499,529	△ 34,142,447	
当期経常増減額	8,075,696	△ 25,194,374	△ 33,270,070	

(注) 100周年記念事業の差引残高を将来の同窓会親睦向上のため確保した

財産目録 2024年3月31日現在

単位：円

科目	金額	科目	金額
＜資産の部＞		＜負債の部＞	
現金	10,524	源泉徴収所得税預かり	27,831
(募金等引当預金)		予納会費－77、78回生	3,425,000
定期預金	30,000,000	あい基金引当金(注1)	13,400,000
定額貯金	13,000,000	親睦向上引当金(注2)	20,894,865
(その他預金)		長期会費未経過分引当金	10,827,334
普通預金	3,633,886	計	48,575,030
郵便貯金	8,999,174	＜繰越金＞	
未収入金	7,000	一般繰越金	10,969,641
短期貸付金	3,000,000		
器具備品	894,087	計	10,969,641
合 計	59,544,671	合 計	59,544,671

(注1)朝陽奨学金引当金から名称変更しました

剰余金処分案		100周年事業繰越金	単位：円
1.前年度一般繰越金	10,664,486	100周年募金募金	88,659,308
当期一般活動収支	305,155	奨学金	△ 22,100,000
計	10,969,641	館山寮改修	△ 16,500,000
2.これを次の通り処分します		集いの場	△ 5,641,363
次期繰越金	10,969,641	記念誌作成	△ 8,881,864
		記念音楽祭	△ 1,180,598
		記念美術展	△ 310,674
		記念庭園	△ 973,720
		親睦向上引当金(注2)	△ 20,894,865
		その他記念事業費	△ 12,176,224
		支出累計	△ 88,659,308
		差引残高	0

(注2)100周年記念事業の差引残高を将来の同窓会親睦向上のため確保

会計監査報告

2023年度朝陽同窓会の会計監査を行いましたところ、会計帳簿及び証憑書類との照合結果については、いずれも一致していることを確認いたしました。

2024年4月26日

監事 中越一統・廣田勝彦

同窓会費納入のお願い

皆様からいただく会費は、さまざまな同窓会活動を円滑に行うためのものです。

今年もまた会費の納入をお願い申し上げます。

年会費 … 2,000円／1年 ただし、6年分を一括先払いいただく場合（長期会費）は、10,000円／6年 です。

単年支払い、あるいは、6年一括の長期会費 どちらかを選んでお支払いください。

過去の未納分については特に請求しておりません。今年度分としてお支払いください。

また、以下の方は、規約により会費が免除されています。

- ・卒業時又は入学時に入会した会員。卒業後5年間は納入免除。
(今年は72～76回生が該当)
- ・現/旧職員。

なお、恐縮ですが、寿会員制度は廃止させていただいております。

問合せは 朝陽同窓会事務局 03-5368-8366 へ

議案3 2024年度事業計画と予算

本年度から、事業計画及び予算は、以下の活動区分ごとに作成する。

- * 親睦の向上
- * 母校の支援
- * 組織・財政の強化

* 「親睦の向上」を目指した事業展開

• ホームカミングデー

日時 10月19日（土）13：00～16：15

場所 母校視聴覚教室

催物 校内ツアー、朝陽合唱団演奏、恩師による授業、恩師との交流

「朝陽」73号同封趣意書に参加予定の恩師を紹介

終了後に懇親会を開催

• 朝陽クラブ 再開を検討中

• 校歌祭

日時 10月27日（日）

場所 杉並公会堂

• 戸山とのゴルフ交流戦

日時 10月31日（木）

場所 武蔵松山カントリークラブ

• 親睦向上のための活動への費用の支出

財源 親睦強化積立金から支出（予算案参照）

* 「母校の支援」のための事業展開

• 朝陽あい基金

募金 2024年度から募金開始

広報 6月発送の「朝陽」73号に趣意書を同封、HP掲載

• 朝陽奨学金

応募 9月

人数 学年奨学金 9名、就学援助金 3名

給付 10月 朝陽あい基金から支出

選考 2月

人数 あい奨学金 3名

給付 3月 朝陽あい基金から支出

• 朝陽祭

日時 8月31日（土）～9月1日（日）

場所 母校

展示 東郷平八郎海軍大将の直筆、荒木貞夫陸軍大将の軍刀など

- キャリアガイダンス
 - 日時 2025年2月12日（水）
 - 講師 12～13名派遣
- 母校支援活動への費用の支出
 - 財源 朝陽あい基金から拠出（予算案参照）
- * 「組織・財政の強化」を目指した事業展開
- 総会
 - 日時 6月29日（土） 14：00～16：00
 - 場所 母校視聴覚室
 - 挨拶 学校長、PTA会長、同窓会長
 - 議事 役員人事、2023年度事業計画と決算、2024年度事業計画と予算
 - 講演 廣瀬直己S23
 - 演奏 朝陽合唱団
 - 懇親会 ベニーレベニーレ 17時より 会費 5千円
- 100周年記念事業報告書
 - 目的 記念事業の活動報告、朝陽記念募金・館山寮募金の寄付者芳名録
 - 内容 会長挨拶、記念事業活動報告、募金者卒回氏名
 - 部数 「朝陽」と同サイズで18,500部
 - 編集 林慶治郎S18を中心に吉村悟S07、小山晴美S25
 - 発行 2025年6月、「朝陽」74号に同封
 - 費用 原稿を紙面レイアウトに変更したうえで、業者に見積もり依頼
代表幹事会に報告の上、2025年度予算に計上
- 広報強化委員会
 - 当面の課題 ホームページ改善案、及びSNS利用案作成
- 支部朝陽会
 - 開催 今年から対面開催復活
- 名簿会計システム切り替え
 - 目的 次世代管理者育成
 - 日時 9月～12月
- ワークショップ開催
 - 目的 次の10年（創立110周年）に進むための企画を討議
例えば総会、代表幹事会への出席者数倍増
音楽祭や美術展の3年ごとの開催
運動部・文化部OBOG会活動支援
その他の新企画をお考えください。
 - 日時 10月または11月
 - 参加 役員と代表幹事
- 組織財政強化活動への費用の支出
 - 財源 会費収入・入会金などから拠出（予算案参照）

2024年度予算案 (単位: 円)

勘定科目	2024年4月1日より2025年3月31日まで			△印は実績に対して予算が少ない 差異理由(実績→予算)
	前年実績	予算	差異	
●親睦の向上(注)				
＜収入＞				
親睦向上引当金から	0	1,000,000	1,000,000	
100年誌売上	806,000	1,000,000	194,000	
小計	806,000	2,000,000	1,194,000	
＜支出＞				
総会後の懇親会費用補助	292,700	300,000	7,300	
校歌祭費用	50,000	60,000	10,000	
朝陽クラブ	0	200,000	200,000	復活開催を目論む
活動助成金	56,000	80,000	24,000	
対外交流	10,000	20,000	10,000	
ホームカミングデー	0	500,000	500,000	復活開催を計画
記念音楽祭、朝陽合唱団	849,455	100,000	△ 749,455	2023年度事業
100年誌	5,122,048	0	△ 5,122,048	2023年度事業
記念美術展	310,674	0	△ 310,674	2023年度事業
親睦向上引当金	20,894,865	0	△ 20,894,865	2023年度に引当
親睦向上一予備費	0	200,000	200,000	
小計	27,585,742	1,460,000	△ 26,125,742	
収支	△ 26,779,742	540,000	27,319,742	

お客様の笑顔のために、
私たちはこれからも挑戦を続けます。



KEIO PLAZA HOTEL TOKYO

京王プラザホテル 〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

TEL.(03) 3344-0111 www.keioplaza.co.jp



●母校の支援(注)				
<収入>				
朝陽記念募金	1,600,000	0	△ 1,600,000	100周年募金から引当
朝陽あい基金	0	5,000,000	5,000,000	2024年度から募集開始
小計	1,600,000	5,000,000	3,400,000	
<支出>				
事務局手当	48,000	376,000	328,000	事務局手当の割り当て分
通勤交通費	3,040	20,000	16,960	
記念庭園	973,720	200,000	△ 773,720	2023年度事業
趣意書	577,500	542,300	△ 35,200	
朝陽祭	2,600	30,000	27,400	
母校支援	101,384	215,000	113,616	
朝陽奨学金	1,600,000	1,500,000	△ 100,000	
母校支援一予備費	0	200,000	200,000	
小計	3,306,244	3,083,300	△ 222,944	
収支	△ 1,706,244	1,916,700	3,622,944	
●組織財政の強化(注)				
<収入>				
入会金	3,465,000	3,930,000	465,000	入会増期待
会費	4,118,406	5,442,000	1,323,594	納入者増加期待
寄付金収入	35,000	100,000	65,000	
名簿発行賛助金還元	2,394,500	40,000	△ 2,354,500	2022年度に発行
朝陽広告料収入	370,000	442,000	72,000	
朝陽記念募金	2,492,176	0	△ 2,492,176	2023年度で終了
預金受取利息	1,139	1,200	61	
財団事務受託収入	360,000	360,000	0	
雑収入	9,498	10,000	502	
小計	13,245,719	10,325,200	△ 2,920,519	
<支出>				
事務局手当	3,759,000	3,522,000	△ 237,000	母校支援活動に割り当て
通勤交通費	295,298	242,300	△ 52,998	
会議費	94,097	90,000	△ 4,097	
通信費	322,649	348,000	25,351	
光熱費	221,077	250,000	28,923	
システム維持改善費	74,676	241,000	166,324	名簿、会計システムの改善のため
備品費	6,961	50,000	43,039	
消耗品費	719,503	720,000	497	
記念品・慶弔費	30,000	60,000	30,000	
銀行郵貯等手数料	137,029	180,000	42,971	
減価償却費	274,018	264,797	△ 9,221	2023年度プリンター等機器更新の影響
出張旅費	0	100,000	100,000	
朝陽発行費	3,922,583	3,994,100	71,517	
総会費用	44,396	35,000	△ 9,396	
支部助成金	52,820	210,000	157,180	支部朝陽会総会の開催支援
組織財政強化一予備費	0	200,000	200,000	
小計	9,954,107	10,507,197	553,090	
収支	3,291,612	△ 181,997	△ 3,473,609	
収支合計	△ 25,194,374	2,274,703	27,469,077	

(注) 会計単位を事業別に3分割し、各々の単位で管理することとします

一般財団法人東京都立新宿高等学校朝陽会財務諸表

朝陽会は、館山寮の土地建物と旧水上寮の土地を所有している法人組織です。朝陽同窓会とは別の組織となっていますが、同窓生が理事、評議員、監事のメンバーとして経営に携わっています。2022年には多数の同窓生のご寄付により館山寮を無事再建することができ、コロナで中断した臨海教室も再開しました。

令和5年度 貸借対照表総括表(速報)
令和6年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産(現金、預金)合計	4,215,344	3,422,758	792,586
2. 固定資産			
(1) 基本財産(土地、建物)合計	186,713,241	192,032,301	△ 5,319,060
(2) 特定資産(館山寮再建等引当金)合計	0	2,514,300	△ 2,514,300
固定資産合計	186,713,241	194,546,601	△ 7,833,360
資産合計	190,928,585	197,969,359	△ 7,040,774
II 負債の部			
1. 流動負債(前受金、未払金)合計	5,220,000	5,986,361	△ 766,361
2. 短期借入金	3,000,000	0	3,000,000
負債合計	8,220,000	5,986,361	2,233,639
III 正味財産			
1. 一般正味財産	182,708,585	189,468,698	△ 6,760,113
2. 指定正味財産	0	2,514,300	△ 2,514,300
正味財産合計	182,708,585	191,982,998	△ 9,274,413
負債および正味財産合計	190,928,585	197,969,359	△ 7,040,774

令和5年度 正味財産増減計算書総括表(速報)
自: 令和5年4月 1日 至: 令和6年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
賛助会員受取会費	3,720,000	3,645,000	75,000
館山寮運営事業収益他	8,411,706	3,989,295	4,422,411
経常収益合計	12,131,706	7,634,295	4,497,411
減価償却費	11,347,060	8,817,257	2,529,803
委託費	4,433,472	2,971,573	1,461,899
保険、賃借料	1,051,669	1,205,794	△ 154,125
消耗品費、什器備品費	618,607	1,433,019	△ 814,412
修繕費	11,136	972,564	△ 961,428
管理人給与	500,000	500,000	0
光熱水、燃料費	1,099,746	973,704	126,042
その他費用	2,274,429	974,696	1,299,733
経常費用合計	21,336,119	17,848,607	3,487,512
当期経常増減額	△ 9,204,413	△ 10,214,312	1,009,899
当期経常外増減額	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 9,204,413	△ 10,214,312	1,009,899
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
一般正味財産期首残高	189,468,698	161,692,427	27,776,271
一般正味財産期末残高	182,708,585	189,468,698	△ 6,760,113
II 指定正味財産増減の部			
指定正味財産期首残高	2,514,300	34,424,083	△ 31,909,783
指定正味財産期末残高	0	2,514,300	△ 2,514,300
III 正味財産期末残高	182,708,585	191,982,998	△ 9,274,413

Fax to : 050-3730-0138

令和6年度朝陽同窓会総会 審議議案 賛否表明用紙

議案1 : 役員人事

☐賛成します

☐反対します

(いずれかに✓を入れてください)

ご意見 :

議案2 : 2023年度事業活動報告と決算案

☐賛成します

☐反対します

(いずれかに✓を入れてください)

ご意見 :

議案3 : 2024年度事業計画と予算案

☐賛成します

☐反対します

(いずれかに✓を入れてください)

ご意見 :

- ・各議案ともご意見欄への記入は任意です。
- ・記入いただいたご意見は、賛否の選択に影響しません。会員の貴重なご意見として今後の同窓会運営の参考とさせていただきます。

お名前 : _____

ふりがな : _____

卒回または卒年 : _____

(卒年は年度でなく卒業暦年)

記名無き賛否意見表明は無効ですので、必ずご記入ください。

賛否ご意見を郵送の場合は、この用紙を封筒に入れ同窓会宛て郵送ください。

切り取り線

このページは賛否表明用紙を切り取り F A Xした場合に、裏面からの映り込みを防止するため空白にしております。

第十四回 ゴルフ交流戦

今年も晴天に恵まれた日本カン
トリークラブで、十一月十四日（火）に
首記交流戦が実施された。新宿高校サ
イドが十九名、戸山高校サイドが十八
名、計三十七名（十組）、八八歳から
六四歳までが集い、時に火花を散らし
ながらも和やかにゴルフを楽しんだ。

今年も残念ながら、団体戦は僅差で
涙を飲んだが（注）、個人戦の優勝は
十八回生の藤井恒彦さん、第三位に同
じく十八回生の三上彩子さん（現朝陽
同窓会長・唯一の女性参加者）が、堂々
と表彰に輝いた。

藤井さんは、グロス 80 HC 7.2 72.8
三上さんは、グロス 90 HC 16.8 73.2
ベストグロスは、戸山高校の今井英
二さん（新宿なら十九回生に当たる）
で、グロス 79 だった。

来年も引き続き交流戦を秋に実施す
る予定です。新たなご参加等、お
問い合わせは、朝陽同窓会事務局へお
願いします。来年こそ、団体戦でも勝
ちましょう。

（注）毎年同じようなコメントで恐縮
ですが、団体戦は、各校上位十名のネッ
ト合計で争います。今年は僅か14打差
で負けてしまいました！
しかし、実はグロスでは、新宿が7
打も勝っていたのです！

（二二回 伊藤 剛）

個人戦第3位の表彰を受
ける三上同窓会長
井上幹事／戸山から



賞金を掲げる個人戦優
勝 藤井さん／新宿
向かって右端は伊藤幹
事／新宿



追悼文・計報

松崎 吉照 先生（享年八七）

令和五年六月一日 ご逝去

教科…保健体育

在籍…昭和四一年四月

～同六十年三月

（十九年）



松崎先生の残してくれたもの

宮地 力（三二回）

新宿高校にはじめて行つたのは入学が決まった一九六八年の三月頃だった。まだ寒い時で、ちょうど体育の授業でなわ跳びを校庭でやっているのを見て、えらく浅黒い先生が授業をしているなと思った。それが五五年間にわたる松崎先生とお付き合ひのはじまりだった。

高校では体育の授業を受け、自分のいた器械体操部の顧問で、また二、三年時の担任でもあった。当時はまさに学園紛争の真最中、授業についてのクラス討論会もあり、担任としても面倒をかけていたことを思い出す。

自分も大学から体育・スポーツを専門に選び、体操部のOBとして練習やコーチとして参加していたので、スポーツの事、生き方の事など、多くを教わった師、まさに自分にとっては父とも呼べるような存在であった。

先生は、一九三六年の生まれ、自分の入学当時は三二才、体操競技現役引退直後に新宿高校で教員となり、その数年後にあたる。まったく器械体操などはじめてというような我々部員に対して、初歩の初歩から指導してもらっていたのだが、その先生がもう一歩で東京オリンピックの代表となるような選手であった事などつゆしらず、とにかく指導は厳しかった。先生の姿が遠くに見えただけで、皆から笑い声も止まりシーンとした空気に包まれていた。

練習ではとにかく手を抜く事はゆるされなかった。例えばマットの練習でバク転をやると、戻りがてらに先生に呼び止められ「おまえは、何を考えていまのバク転をやったんだ」と言われる。何と答えていいやらわからない。するとまた怒られる。鉄棒で「もう一

度」と言われて何度も繰り返すと、段々手の皮がむけてくる。平行棒を支えている上腕の裏側は青あざになってくる。そんな事を繰り返していた。打ったり殴ったりというような事は一度もなかったけれど、そういう練習だった。自分もトレーニング、コーチングを大学まで続けていくなかで、段々と先生の言葉、行動がわかってきたが、それを肌で学ぶことが出来たのが高校のクラブ活動だった。

先生から言われた言葉のなかで今でも忘れられないものに「宮地、頭でっかちになるな」というものがある。きつと一人一人には違う言葉をかけていたのだろう。もしかしたら何を言ったのかも先生は忘れているかもしれない。しかし、時々その言葉を思い出すことで、自分の行動に大きく影響した。そういう自分を作る種をくれたのが先生だった。

近年、先生はパーキンソン病で苦しみながらも、体操部の会合には必ず顔を見せてくれていた。その姿は、優しく親しみのあるものであったが、また老いる事への我々への一つの手本でもあった。

常に我々の師であった先生に合掌。

小宮 進 先生（享年九三）

令和五年七月五日 ご逝去

教科…世界史

在籍…昭和四三年四月

～同五七年三月

（十四年）



挫けない心とかけがえのない仲間

安齋 正則（二六回）

私は昭和四六年に入学し、二代目の校舎で高校生活を送ったのですが、まだ府立六中時代からの初代校舎が解体されずに残っていました。興国の鐘の塔も残っていました。私はその旧校舎の一室に畳を敷いて練習している柔道部へ入部しました。顧問が小宮先生で、この時お会いしたのが始まりでした。

体も小さく非力だった私を先生は絶えず気にかけて下さいました。練習についていけないんじゃないか、すぐやめてしまうのではないかと。私が練習中に左足の小指を骨折して、悲壮な顔をして報告に行った時、重い心の私を見透かして「足の小指なんてものはないから、骨折するんだよ」と教えて軽く言われました。その瞬間私の

心もすつと軽くなり、その後も挫けずに続けられました。あの時の一言で私は救われました。

翌年二年生で、先生の世界史の授業を受けました。時間軸で捉える歴史を地図上の空間軸でも捉えることにより、より理解が深まると教えられました。

これで世界史・歴史がより一層イメージしやすくなり、歴史好きになりました。そして後、私が中学校の社会科教員になった時、先生からの教えが生かされました。生徒が歴史をイメージしやすく、理解しやすくするために地図などを使用して視覚的に捉えられるような授業を展開しました。

小宮先生とは卒業後も度々お会いして、いろいろアドバイスを頂いたり、励ましを頂きました。先生のお宅にお邪魔し、言葉の上でしか知らなかった玉杯でお酒を頂いた時には感激しました。

柔道部OB会では卒業して五十年以上たった今でも親交を重ねています。私にとってかけがえのない、先輩、後輩、仲間です。このような出会いも小宮先生が柔道部の顧問をされていたおかげだと思っています。その柔道部OB会では二三期から二八期までが集ま

り、平成二九年に先生の米寿のお祝い、



平成29年6月米寿祝 向かって右から4人目が先生

りご冥福をお祈りいたします。

私に挫けない心とかけがえのない仲間を与えてくださった小宮先生、本当にありがとうございました。

平成三十年には卒寿のお祝いを致しました。先生の嬉しそうな顔が今でも心に焼き付いています。まだまだ元気だおめでたいと思いましたが、ご逝去され残念です。心よ



北地 節夫 先生（享年九四）

令和五年六月二十四日 ご逝去

教科…地理

在籍…昭和三十三年九月

（同五七年三月

（十四年）



北地先生に五十年間の

感謝を込めて

水野 浩久（二八回）

「ばかもん！」卒業式が終わり教室に戻り北地先生を待つ間に、ある同級生がクラスの皆にクラッカーを配り先生が入ってくるなりに鳴らした直後の先生の怒声、私が三年間お世話になっていた中で最初で最後の大きな声でした。いつも温厚で生徒の一人ひとりに心を傾けてくれていたことに全員が反省した瞬間でした。それからみんながそれぞれの道を歩み始めて、平成四年十一月に私が洋食屋を始めたときには、真っ先にお祝いに駆け付けて頂きました。

「水野、お前の店で三年A組のクラス会をやれ」そう言われてから二八年の間毎年クラス会をさせて頂きました。

毎回先生は、昼の一時からの開会に幹事より早くにいらしていただき、夕方までみんなと酒を酌み交わし、お帰りになる前に、その時々のお私たちに応じた言葉をいただきました。自分たちの今の心境や環境に合致しているのだから、それがお帰りに、決心したりで、先生がお帰りになった後は夜遅くまで話が尽きませんでした。

令和三年七月に市谷に店を引越した時もコロナ禍でありながら、形を変えてのクラス会にもご出席いただきクラス全員が感謝をしていました。

令和四年のクラス会では、先生が自転車で買い物をしたときに、転んで骨折をされたそうで残念ながら寂しいクラス会になってしまいました。

私は現役時代から先生には特に心配をかけてしまいました。約三十年の間クラス会をさせて頂き、先生と社会人として酒を飲み、話をさせて頂けたことを感謝しています。

また、クラスのみならず、卒業生でもなく同期でもない私の妻を三年A組の一員として快く受け入れてくれたのも先生の気持ちを理解してくれてのことだと思います。

これからのクラス会は先生不在のもの

のになってしまいますが、先生の遺影とともにクラスの皆と楽しいひと時を過ごすことが先生に喜んでいただけたことだと思い、少しでも多く回数を重ねたいと思います。

先生、私たち三年A組の全員が先生の生徒で幸せでした。約五十年の間、途切れることなく、お心を私たちに傾けて下さり本当にありがとうございました。奥様が亡くなられた三日後には奥様が亡くなられたそうです。愛されていたんですね。私たちの本当のお手本であり、やはり人生の先生ですね。クラス全員で、先生ご夫妻のご冥福を心より祈ります。

先生、今年のクラス会は十一月二十五日です。今度はご夫妻で参加してください。お待ちしております。



我らの偉大な恩師

北地先生を偲んで

加賀美 秋彦（二八回）

七月十四日 わが新宿高校二八回生三年A組有志のグループラインに北地先生のご逝去の一報が入りました。数日前から先生と連絡がとれないとの話もあり、耳が遠くなられていたのでは、電話に気づかないのではないかと心配なのでご自宅に訪問してみようかと不安な思いを抱くクラスメイトも増えてきた中で、まさかの訃報でした。

私は三年間、先生のクラスで学ばせていただきました。大学受験も地理を社会科学の選択科目としていたこともあり、社会科学教官室でよく先生に訊きにっていました。また、私の結婚式のご媒酌人にもなっていたとき公私両面で本当にお世話になりました。当時クラス替えは一年から二年に上がる時の一回で二年、三年と同じメンバーで過ごします。A組の思い出はたくさんあり枚挙にいとまがなく特に生徒は個性の強い者が多く在籍していました。

今だから言えますが、新宿御苑への不法侵入、休み時間の非常階段での喫

煙、生徒の個人ロッカーでの煙草のキープ。二年生三学期の京都・奈良の修学旅行では酒を買いこみ宿泊ホテルで味見もしました（旅行前日には安全祈願の酒盛りもしました）。後夜祭の後は今では無きマンモス喫茶「カトレア」でワイワイと酒で喉の渴きを癒すこともありました。また、ある教科の先生からは、素行や学力両面だと思いますが「このクラスは最低だ」と授業中に言われたこともあります。高校生としてはあるまじき行為でしたが今となつては過去の出来事です（真剣に勉強・スポーツに打ち込む生徒も多々いました。誤解なきようお願いします。）。こんなクラスの状況を北地先生にはお見通しだったと思いますが、我々を見放さず在学中の勉学・進学指導はもちろん卒業してからもキッチン水野（水野君と奥様とご子息で運営しているレストランで現在は市ヶ谷駅からすぐの場所。キッチン水野のおかげでクラス会も例年開催でき先生を交えたA組の交流もしてこれました。水野君にも感謝します）で毎年開かれるクラス会に足を運んでくださり、我々一人ひとりに仕事・健康・家族の近況等気にかけていただきました。

近年は耳がやや遠くなられ、杖も使用されていらつしやいました。昨年自転車で転倒されクラス会にご欠席でしたが今年はお参加を期待し、そろそろご案内をしようと思っていた矢先の訃報で信じ難く嘘であつて欲しいと思いましたが現実でした。先生からすれば我々が幾つになつても教え子であることに変わりなくいつも深い愛情を注いでくださいました。先生、心から感謝申し上げますが、恩師に対するご恩返しってどうすればいいのか、今さらながら悩んでいます。

先生ご逝去の三日後の二七日には奥様もお亡くなりになりました。お二人で仲睦まじく旅立たれたことで先生も奥様も寂しい思いをせずに天国にいらつしやるのでしょうか。我々も二十年后か三十年後かわかりませんが、先生のもとへ行った際には、「よく来たな。一献酌み交わすか」と優しく迎えていただければ幸いです。先生に対する思いは尽きません。改めて感謝の意を表すると共に、心からご冥福をお祈り申し上げます。



計 報

恩師計報

松永浩之先生

ご逝去…二〇二三年十月二六日

享年…五九

教科…数学

在任期間…二〇一七年四月

～二〇二三年三月

(六年)

篠田直樹先生

第十九代校長

ご逝去…二〇二三年五月二七日

在任期間…平成十九年

～平成二三年

(四年)

西村文男先生

第十二代校長

ご逝去…二〇二二年四月二日

享年…九二

在任期間…昭和六二年四月

～平成二年三月

(三年)



広報活動をより強化していきます

広報強化委員会を設置（2024年1月）し、同窓会活動の活性化をめざし活動します。

1. 朝陽同窓会 HP の充実

- よりわかりやすく、より興味を持っていただける HP をめざします。
- 各同期会・各 OBOG 会、等の掲示板的機能も持たせます。

同窓会 HP へは
こちらの QR コード
から



2. ソーシャルネットワーク (SNS) の活用

- 各種 SNS を利用して多世代に渡る同窓生に向けて発信していく準備をしています。

SNS 活用の
ご案内は右の
QR コードから



東京都立新宿高等学校朝陽同窓会 同窓会会報 朝陽 73 号

発行日：2024年6月1日

発行人：東京都新宿区内藤町11番4
東京都立新宿高校内
朝陽同窓会長 三上 彩子

非 売 品

本誌内容（写真、文章）の無断転用転載は
お断りいたします。

編集後記

コロナウィルス禍もようやく下火になり、部活OB・OG会をはじめ多くの同期会が開催され同窓会にもようやく活気が戻ってきたようにも思えます。

一方周年記念記事には欠けがでるなどまことに申し訳ありません。編集部
の力不足お詫びいたします。

引き続き、同窓会活動へのご支援を
賜りますようお願い申し上げます。

（朝陽編集長 一八回 林 慶治郎）



生産者の子どもたちと交流

水道設備の建設など生活改善活動を実施



コーヒーの生育状況を確認

約4年ぶりに再会した生産者の方々

東ティモールとともに歩み続ける17年

今から遡ること17年前、ゼンショーのフェアトレードは東ティモールから始まりました。

ゼンショーはこれまでにフェアトレードによる社会開発資金*を活用し、現地で活動するNGOと共にコーヒーに関わる農業技術の支援や有機農業の推進、コーヒーの流通やサプライチェーンの再建を実施。生活改善支援として水道施設の建設などを行いました。

そして2023年9月、コロナ禍を経て約4年ぶりにフェアトレード部員が現地を訪問。コーヒー生産者の自宅に宿泊し、ともに焚火を囲んで交流を行いました。また、社会開発資金を使用して建設した水道施設が地域に住む人々に丁寧に使われ、衛生環境の維持に役立っている様子が確認できました。社会開発資金は今後、コーヒー保管倉庫の増設や、水がまだ行き届いていない地域への水道施設の配備等に使用することを検討しています。

ゼンショーはこれからも、生産者やNGOの方々と信頼関係を醸成しながら、東ティモールにおける取り組みを継続してまいります。

※社会開発資金…原料買取価格の中で現地の人々が必要とする様々な生活改善活動に充てられる金額のこと

THINK EARTH COFFEE は、フェアトレードを通じ、おいしいコーヒーを未来へとつなげるブランドです。



シンクアースコーヒー



公式サイト
thinkearthcoffee.com



シンクアースコーヒーは公式サイトでご購入いただけます。

株式会社 ゼンショーホールディングス
代表取締役社長 小川 賢太郎 (19回卒)

〒108-0075 東京都港区港南 2-18-1 JR品川イーストビル Tel : 03-6833-1600

ZENSHO

◎2024年度朝陽同窓会総会開催のご案内

今年度の総会は、昨年同様 対面・書面での二本立て・同時開催です。対面開催に参加される方は当日記名投票により賛否表明をして下さい。対面開催に参加されない方は書面開催の方式で賛否表明をして下さい。

(1) 対面開催

日時：2024年6月29日(土) 14:00~16:00

場所：新宿高等学校視聴覚教室(本校3F)

1. 総会本誌64~71ページに記載の議案審議
2. 記念講演 講演者：廣瀬 直己さん(23回)

演題：福島原子力事故からの学びと今後のエネルギー

*対面総会が中止となった場合、速やかにHPでお知らせします。その場合、対面開催参加予定だった方も書面開催方式での賛否表明をして下さい。

(2) 書面開催

議案は、本誌64~71ページに記載されています。内容をご検討の上、本誌64ページのご案内に沿って賛否ご意見を表明ください。〆切は、6月28日(金)です(郵送の場合必着)。

〈賛否表明について〉

- ・対面／書面いずれかの方法で賛否表明可能です。
 - ・両方の方法で賛否表明なさった場合、対面での賛否を優先します。
 - ・書面開催と対面開催の賛否表明を合算して最終結果とします。
- 結果は、後日、同窓会ホームページでもお知らせいたします。

◎懇親会のご案内

総会終了後に、場所を以下に移して懇親会を開催いたします。

日時：2024年6月29日(土) 17時~19時30分

場所：ベニーレベニーレ

(新宿区新宿3-5-4レインボービレッジ8F)

会費制：5000円(当日受付にてお支払い下さい)

人数：着席80名、着席ビュッフェ形式です。

事前申し込み：受付期間6月10日(月)~24日(月)

右のQRコードから同窓会HPにアクセスしてお申し込みください。

